

# SPUR

Vol.69

-2025-



東北大学学友会スキー部

## SPUR 第 69 号 目次

部長文	… 3
監督文	… 4
主将文	… 6
インカレ観戦記・体験記	… 8
十大戦観戦記・体験記	… 12
令和 6 年度成績表	… 13
部長・監督紹介	… 19
部員紹介	… 20
活動報告	… 26
幹部文	… 28
部員文	… 31
令和 6 年度会計報告	… 76
令和 6 年度寄付金報告	… 79
学友会スキー部則	… 81
スキー部員名簿	… 85
スキー部 OB・OG 名簿	… 90
広告	… 104
奥付	… 107

## 部長文

インカレでの活躍と日出間 純 先生のご移動

部長 青木俊明  
(国際文化研究科 教授 平成五年卒)

令和六年度も、東北大学スキー部は大きな挑戦と成果の年となりました。第九十八回全日本学生スキー選手権大会（インカレ）は青森県の大鰐スキー場で開催され、男子は二部総合九位という成績を収め、残留を果たしました。ノルディック種目を中心に着実に得点を積み重ね、純ジャンプでは三位と九位に入賞するという快挙も成し遂げました。男子は、国公立大学の中では、東京科学大学（総合二位）、北海道大学（総合三位）に次ぐ成績を収めました。

女子においては、念願の一部の舞台で健闘し、総合十位となり、見事一部残留を果たしました。中でも純ジャンプ競技では五位入賞を果たし、ノルディック複合では三位と五位に入賞しております。どれも特筆に値する成果です。女子一部に在籍する国公立大学は東北大学と北海道大学のみであり、北海道大学が十二位だったことから、国公立大学の中では東北大学が最上位となりました。

さらに、モーグルでは、全日本スキー選手権に出場し、DNF 二十一位、MO 二十六位という立派な成績を収めております。インカレ

ではなかなか結果を残せないアルペンにおいても、FIS レースに参加する部員もあり、着実に実力を高めております。これらの成績は、部員たちの努力の成果であることはもちろんですが、多くの方々からご指導・ご支援を賜った結果でもあり、スキー部を支えて下さっている皆様に心より感謝申し上げます。

ところで、長年にわたりスキー部長としてご尽力いただき、萩雪会の要としても部員とOB/OGを支えてくださった日出間純先生が、令和六年十月をもって千葉大学に特任教授として異動されました。今後は学生とOB・OGの橋渡し役としてだけでなく、東京萩雪会と萩雪会の連携強化にもご尽力いただけることと期待しております。

コロナ禍を経て、これまでの文化や伝統を見直す大きな転換点にあります。それはスキー部においても例外ではなく、「酒を飲まない花見」、「芸のないコンパ」といった「新たな文化」が生まれ、スキー部もまた令和の価値観にふさわしい文化を自らの手で築いていく段階にあります。それは決して過去を否定するものではなく、これまでの歴史の上に、新しい世代の色を重ねていく「時代に合わせた進化」であると言えます。スキー部がこれからも、部員一人ひとりとってかけがえのない居場所であり続けるためにも、副部長の土屋史紀先生とともに、時代に即した柔軟な対応をもってスキー部の活動を支えて参りたいと思います。スキー部を支えて下さっている皆様におかれましては、引き続きご支援・ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

## 監督文

志関弘平

昨年に引き続き、東北大学学友会スキー部の監督を務めさせていただきます理学研究科博士後期課程二年の志関弘平と申します。現役時代はアルペン部門に所属しておりました。本年度も、現役とOB・OGの皆様とのつながりを保ち、現役部員のサポートに努めてまいります。皆様におかれましては昨年度もスキー部の活動を様々な面で支えていただき厚く御礼申し上げます。今年度も変わらぬご厚誼を賜りますようお願い申し上げます。

ここからは、現役のみなさんに意識してみてほしいことを、いくつか書いていこうと思います。一つ目は向上心よりも野心を抱いてほしいということです。昨年の監督文では「部活全体の目標のほかに部員一人一人が自らの目標を設定し主体的にトレーニングに励んで欲しい」と書きました。部員のみなさんが私の文章を読んでくれたかどうかは分かりませんが、現在のスキー部は部活の練習以外にも自主練をおこないレベルアップを目指している部員が多く非常に良い流れだと思っています。しかし、スポーツの世界で活躍するには向上心だけでなくやや響きの悪い言葉ですが「野心」を抱くことが重要だと思います。「今シーズンシールドメンバーになる」という向上心よりも、「今のメンバーを蹴落としてでもシールドを奪ってやる

う」という野心を抱いたほうが目標達成の近道になります。たとえば自分がどんなに一生懸命練習しても、ライバルがもっと上手くなっていた場合、自分の立場は変わりません。野心を抱くことでより周りの世界が見えるようになり、目標達成のためには自分は今何をすべきかということも見えてくるようになります。

二つ目はシンプルなアドバイスを大切にしていこうということです。私たちが行っているスキーという競技はその性質上、非常に複雑かつ高度なテクニクを要求されるスポーツではないかと思えます。特に大学から競技を始めた選手はその動作の複雑さに戸惑うでしょう。そんな難しいスキーの技術をコーチや先輩から教わるとき、自分の知らないことを教えてくれると期待する人が多いと思います。そんな時にシンプルな指導を受けると「この人は誰でも知っているような簡単なことしか言わない」と期待外れに感じるかもしれません。シンプルに説明してくれる人よりも、難しい言い回しを使う人のほうが高度な内容を伝えてくれていると錯覚しがちです。教わった技術の修得に取り組む際、難しい表現で説明されたことを身につけられれば自分がレベルアップしたという気になれます。しかし、技術には絶対的な基本はありますが絶対的な方法論はありません。百人いれば百通りの感性があり百通りの方法論があります。シンプルな表現は、受け手に勘違いさせる場合が少なく、大切な要素を凝縮しており、絶対的な基本を伝えるものなのです。高い技術を持っている人ほど、その難しさを熟知しているからこそ、第三者に伝える際にはシンプルな表現を使おうとすることが良くあ

ります。ぜひシンプルなアドバイスこそ聞き逃さず、重要なヒントをつかみ取ってレベルアップしてください。

私は現在も競技活動を続けていますので、練習に参加し現役部員とコミュニケーションをとり、気軽に何でも相談できる現役部員に近い監督を目指し微力ながらスキー部を支えさせていただきます。最後になりますが、今年度の現役の活躍に期待しつつ、今後とも東北大学スキー部の活動にご理解とご協力をいただきますよう何卒よろしくお願い申し上げます。

## 主将文

滝沢周大

今年度、主将を務めさせていただくことになりました、三年の滝沢周大と申します。今年一年間よろしくお願いいたします。まず初めに、これまで部を支えてくださった先輩方、互いに助け合いながら切磋琢磨してきた部員の皆、そして私たちの活動を見守り、支援してくださっている全ての方々に、心から感謝申し上げます。主将という立場を任された以上、スキー部という組織の運営が円滑に進んでいくよう、これまで以上に責任を持って行動していきます。

さて、今年度のスキー部全体としての目標は、十大戦では「男女ともに優勝したうえで総合優勝」、インカレでは「男子二部五位、女子一部九位」です。昨年度の十大戦総合二位の悔しさを晴らすということ、インカレでの順位をジャンプアップさせていこうという思いで、この目標を立てました。

主将になるにあたり、私が一部員として活動してきた二年間を振り返って感じたこととして、部門間の隔たりがあります。競技性の違いからどうしてもノルディックとアルペンが練習で関わる機会が少なくなりがちです。普段から他部門のことをよく理解できていたかと言え、そうも言えない状況もあったと思います。今年度は、「他部門をリスペクトし、大会で心からの応援を送る」ということ

を、一つ活動の軸としていきます。具体的な活動として、全部門合同の全体練を実施するほか、ランニングトレーニングを同じ場所、時間で行うことで、部門の垣根を超えて深く関わりあっているという感覚を強めていけるようにしていきます。

スキー競技というものは、ほとんどの種目が個人競技であり、競技中は「自分との闘い」であるという側面が少なからずあると思います。しかし、自分自身が強くなるには、もちろん継続的な練習を行う必要があります、長いオフシーズンにおいてモチベーションを維持していかなければならず、一人でこなすのは相当な努力を要します。そこで、仲間を巻き込んで協力や競争することで、苦しさを乗り越えることができると考えます。だからこそ私は、全員が真剣に、そして互いに高めあう雰囲気のあるチームづくりを目指していきます。また、スキー部として活動していくうえで、貴重なお金と時間を割くこととなります。さらに、学生の本分である学業もおろそかにすることはできず、自由に使える時間は少なくなります。学生生活のうちでせつかくこのような大きなリソースを部活に投入するわけなので、「この部活に入ってよかった」と心から思えるような有意義な場になるよう取り組んでいきます。

最後になりますが、スキー部のかたちを受け継ぎ、そしていつも現役の活動を応援してくださる先生方やOB・OGの皆様にご場を借りて御礼申し上げます。ご期待に応えられるよう、部員一同、日々の練習に励んでまいります。ブログやインスタグラム等で活動の様子を報告していきますので、今後ともご支援のほどよろしくお

願  
い  
た  
し  
ま  
す。

## インカレ観戦記

高田光太郎

三年コンバの高田です。今回の全日本学生スキー選手権大会は一月三十一日と、二月十八日から二十三日に行われました。SCのみ一月三十一日に開催されました。開催地はSCが福島県猪苗代町、GS・SL・CCが青森県大鰐町、純飛躍・複合が岩手県八幡平市です。開催地が離れていたこともあり、僕は純飛躍とノルディック複合にしか応援に行けませんでした。インカレ観戦記というタイトルではありますが、一部の競技しか紹介できないことをご了承ください。

二月二十日、この日は純飛躍が行われました。男子二部では村上選手が三位、谷選手が九位。そして女子一部では小澤選手が五位と好成績を残しました。女子一部はノーマルヒルで行われました。小澤選手は今大会ために、蔵王、白馬、鹿角などのジャンプ台をめぐるノーマルヒルでの練習を行っていました。そんな姿を見ていたため、早稲田大学の四人に次ぐ堂々としたジャンプには感動を覚えました。

二月二十一日、ノルディック複合が行われました。男子二部では村上選手が前半二位で合計で十一位。谷選手が前半七位で合計で十七位でした。女子オープンでは小澤選手が三位で品川選手が五位でした。前半のジャンプでは前日より順位を上げました。谷選手は

今大会で引退だったため、ゴールを切った後はやり切った表情をしており、とても印象的でした。同期の品川選手も最後まで走り切ってくれました。また、全競技が終わった後に十大学のみんなで集合写真を撮りました。コンバインドは競技人口が少ない分、他大学との交流が深いのも魅力の一つですね。

インカレ全体の結果としては男子二部は九位。女子一部は十位という好成績を収めることができました。

僕は昨年の冬はけがの影響で全く活動できませんでした。正直悔しさがあります。今年は就活の関係でおそらく冬頃は満足に練習もできず大会に参加できるかはわかりません。今年は後輩もたくさん入ったこともあり、応援にはいきたいと思っています。今年度東北大スキー部はインカレ男子二部五位、女子一部九位を目標に日々練習に取り組んでいきますので今後とも応援・ご支援よろしく願います。

# インカレ体験記

猪川 椋人

東北大学学友会スキー部三年アルペンの猪川椋人です。一月三十一日と、二月十八日から二十三日まで全日本学生スキー選手権大会が行われました。SGのみ一月三十一日に開催されました。開催地はSGが福島県・猪苗代町、GS/SL/CCが青森県・大鰐町、ジャンプ\複合が岩手県・八幡平市です。東北大学学友会スキー部はアルペン十人、ランナー八人、コンバインド四人、の二十二人が出場しました。自分はアルペンの人間なので、アルペン中心で書いていきたいと思っています。

今年は、去年より比較的滑りやすい大会だったのかなと思います。会場の、コースとバーンが去年と大きく異なるからです。会場について、去年は秋田県の花輪スキー場、今年は青森県の大鰐スキー場でした。今年のコースは去年と比べ斜度も緩く、片斜面でもなかったです。また、バーンについて、去年は異例の雪不足があり、ガチガチのアイスバーンでしたが、今年は、雪がかなり降り(降りすぎだった気もしますが)、しっかり雪の付いたバーンでした。結果として、去年より難易度自体は低かったと思います。

ただ、滑りやすいからといって、いい成績を残せるわけではないです。コースが、滑りやすい分、長いコースになっており、また、

皆が攻めた滑りをするからです。結果として今年は、去年より熾烈な競争になった印象があります。また、女子に関しては、今年から一部に昇格したことで、セットがより難しくなり、周囲のレベルも一気に上がったことで、良い順位を残すどころか、完走することが難しくなりました。あんなハイレベルなセットとライバルの中で滑っていた女子たちは本当にすごいと思います。

では、自分の競技を振り返りたいと思います。私はSLしか出場していないので、SLについて感想を述べたいと思います。実は、このレースが人生初の公認レースでのSLで、ありえないくらい緊張していました。昨年のインカレではGSの二本目で怪我をし、ゴールできず、SLにも出場できなかったからです。

そんな中で始まった一本目、未だかつてないほどのビビった滑りを披露しました。普段練習しているコースとは違って、掘れ掘れのバーン、長いコースで、「想像と違うー！」と思ってしまったからです。当然、掘れたコースでの練習はしましたし、長いとも聞いていました。ただ、自分の想定が低かった。予想外の中を滑り続けましたが、私の中での、今回の第一目標は、完走することでした。「どれだけビビってもいいから、とにかく完走したい。リザルトに名を残して、ポイントを獲得したい。」と。そう思っていたので、一本目はとにかく、完走できるように、こけず、怪我せず、冷静に滑りました。何とか一本目は完走でき、一応タイムを確認。あまりにも遅くてびっくりしました。もちろん完走が第一目標で、タイムは二の次。わかっていましたが、あまりにも遅くて、少し情けなくなり

ました。

続く二本目、一本目であまりにも恥ずかしい滑りをしてしまったので、完走はもちろん第一目標だが、少しタイムも意識して滑ろうと思って滑り始めました。二本目も何とか完走できました。再び一応タイム確認。まだ遅い。何なら、一本目と数秒も変わらないのでは、と思うほどでした。

ただ、個人的には本当に嬉しかったです。周りには、遅すぎて笑われたりもして、正直悔しい気持ちもありました。ですが、自分で立てた目標を達成できたことは純粹に嬉しかったです。立てた目標が小さかったと思われるかもしれませんが、いや、実際小さすぎたでしょう。ただ、これから一歩ずつ目標を上げていって、より速い選手になりたいと思います。見えている課題は、掘れへの対応と、体力の向上です。頑張ります。

ただ、今年は就活もあり、あまり満足に練習できないと思っています。また、素人目から見ても、岩川、辻井、橋浦、蓮太郎がどんどん上手く、速くなっています。後輩が速くなるのは誇りである一方、プレッシャーでもありますね。負けないようにできる事をやっていこうと思います。

来年、就活の真っ只中で、インカレには出られないでしょう。代わりに、同期、先輩、後輩が奮闘してくれるよう応援しております。来年度も東北大学学友会スキー部をよろしく願います。

# 十大戦観戦記

## 前川舜馬

ランナー二年の前川舜馬です。二〇二四年十二月二十八日から二〇二五年一月三日にかけて、長野県野沢温泉スキー場で第六十四回国立十大学スキー選手権大会が開催されました。十二月二十八日の開会式にはじまり、皆が全力を尽くし、東北大学は男子三位、女子優勝、そして男女総合準優勝という結果を収めました。また、第六十四回全国七大学総合体育大会としては優勝を収めました。ここでは、クロスカントリー競技について書きたいと思います。

## ●フリー競技

女子は5km 谷口選手一位、加藤選手二位、林選手九位とポイント獲得、素晴らしい活躍でした。安定のワンツーフイニッシュだったよかったです。男子は10kmで、吉田選手八位、滝沢選手十位でそれぞれポイント獲得、さらに一年の高橋選手が十七位と、ポイント獲得とはなりませんでしたが、他の一年生に刺激を与える素晴らしい走りを見せてくれました。

## ●クラシカル競技

女子は5kmで谷口選手一位、加藤選手五位、林選手七位とポイント獲得で再び東北大学に大きく貢献してくれました。男子は10kmで、ポイント獲得は滝沢選手八位のみとなりました。今回は

天候や雪質が不安定で、グリップを合わせるのに苦戦しました。全くグリップが効かない中でどう戦うのかが鍵となりました。

## ●リレー競技

女子は3km×3で、一走谷口選手、二走林選手、三走加藤選手でした。常にトップの座を譲らない、圧倒的な走りでした。男子は5km×4で、一走滝沢選手、二走渡邊選手、三走西村選手、四走安村選手でした。結果は六位でしたが、リレーの大エース吉田選手不在の中、健闘しました。

また、アルペン部門では南雲選手、鈴木選手、尾白選手、山田選手、澤田選手、岩川選手、塩倉選手が、コンバインド部門では谷選手、小澤選手、品川選手が大活躍し、部員全員が練習の成果を発揮しました。今回の十大戦は体調不良者が続出しましたが、なんとか終わることができました。そして、男女総合二位という大変悔しい思いもしました。今年度、私たちスキー部は十大戦に関して、男子優勝、女子優勝、男女総合優勝を目標に掲げ、日々練習を頑張っていきます。最後になりますが、私たちが全力で練習できる環境を整えてくださるOB、OGの皆様をはじめ、スキー部に関わってくださった多くの皆様のご支援、ご協力、本当に感謝しています。今後とも応援よろしく願っています。

# 十大戦体験記

谷口聖実

こんにちは。ランナー三年の谷口聖実です。二〇二四年十二月二十八日から二〇二五年一月三日まで、野沢温泉にて開催された国立十大学スキー選手権大会の体験記を、ランナーの競技を中心に書いていきたいと思います。

今回の十大戦は、十分な積雪によりクロスカントリースキー競技は三年ぶりに標高の低い南原クロスカントリースキーコースで行われました。東北大のシード選手は全員三年生以下だったので、ほとんどの人が前日のアップで初めてコースを回ってどんなコースかを知るといって、珍しい事態でした。コースが頭に入りきらない状態だったので、初日のフリー競技では特にレースの戦略を立てるのが難しかったです。

個人のレースを振り返ると、フリー・クラシカル・リレーの三つのレースとも納得のいく走りができました。目標としては、個人種目では二位の選手と一分以上のタイム差をつけて優勝すること、リレーでは三人とも区間一位で完全優勝することを掲げていて、個人種目で目標達成、リレーでは惜しくも一つ区間一位を逃してしまいました。南原のコースを滑っていて感じたことは、下りのカーブでスピードをできるだけ落とさずに滑り切る、平地では長くスキーに乗って体力の消耗を抑える、などの

技術がタイムに大きく関わっているということです。このコースは下りが急なポイントがあり、多くの選手が転倒してしまっていたため、転倒せずに滑ることができた選手と大きな差がついていました。このような技術をシーズンインの早い時期に雪上で練習して身につけたり、ローラーでオフシーズンから意識したりすることが大切だと思いました。

ランナーの競技全体を見ると、十二月に北海道で長期合宿をしていた他大学に比べ、東北大は雪上での練習不足が明らかな結果になったと感じています。大学の授業もあり十二月に長くスキーに時間を割くことが難しい中ではありますが、なんとか練習する時間と場所を確保していききたいです。また、クラシカルの日には気温がプラスになるほど暖かく、グリップワックスを合わせるのも困難を極めました。サブの板を使ってワックステストをたくさんしましたが、結局男子のスタートの時間帯はルーピングが正解だったようです。来年はこのような知識・経験の面でもチームを引っ張っていただける選手になりたいです。そして、来年こそは、まだ〇〇の代は経験したことがない、十大戦総合優勝を達成したいです！

## 令和6年度成績表

第64回国立十大学スキー選手権大会						
会場：野沢温泉スキー場						
男女総合2位 男子3位 女子1位						
	男子大回転			男子回転		
正シード	順位	氏名	合計	順位	氏名	合計
	3	澤田 真拓	39.06	3	山田 唯人	53.68
	4	山田 唯人	39.13	4	澤田 真拓	54.67
	6	塩倉 颯瀬	39.81	6	岩川 雅治	58.21
	9	岩川 雅治	40.10	8	塩倉 颯瀬	59.11
	27	鈴川 蓮太郎	44.16	25	鈴川 蓮太郎	1:11.39
	29	辻井 響	44.69	26	辻井 響	1:11.70
オープン	順位	氏名	合計	順位	氏名	合計
	1	猪川 椋人	43.50	1	渡部 新	1:03.21
	-	渡部 新	DS	2	猪川 椋人	1:11.11
	女子大回転			女子回転		
正シード	順位	氏名	合計	順位	氏名	合計
	2	鈴木 さくら	40.48	2	南雲 美里	1:01.95
	3	南雲 美里	40.69	13	佐々木 晴菜	1:22.76
	7	尾白 梓	46.23	-	鈴木 さくら	DF
	14	佐々木 晴菜	50.71	-	尾白 梓	DQ
	男子純飛躍			女子純飛躍		
正シード	順位	氏名	合計得点	順位	氏名	合計得点
	4	谷 祥太郎	49.2	1	小澤 わかば	30.5
				6	品川 咲季	-9.8
	男子ノルディック複合					
正シード	順位	氏名	ジャンプ得点	タイム		
	12	谷 祥太郎	47.3	20:39.7		
	女子ノルディック複合					
正シード	順位	氏名	ジャンプ得点	タイム		
	5	品川 咲季	-11.2	11:20.7		
	-	小澤 わかば	23.5	DS		

	男子フリー10km			男子クラシカル10km		
正シード	順位	氏名	タイム	順位	氏名	タイム
	8	吉田 溪人	33:51.5	8	滝沢 周大	39:05.5
	10	滝沢 周大	34:33.0	15	西村 大佑	40:53.0
	17	高橋 昂希	35:16.8	21	宮崎 真瑛	42:44.6
	27	安村 悠希	36:37.1	28	渡邊 梓	45:51.0
	29	西村 大佑	37:44.9	-	吉田 溪人	DS
オープン	順位	氏名	タイム	順位	氏名	タイム
	7	宮崎 真瑛	39:10.7	4	齋藤 瑛斗	46:01.9
	10	齋藤 瑛斗	40:18.4	6	飯田 健人	49:11.1
	13	飯田 健人	42:14.0	8	前川 舜馬	53:23.0
	18	谷 祥太郎	43:36.6	9	月岡 晃太郎	54:53.3
	22	前川 舜馬	45:51.9	10	西村 修平	57:38.0
	27	月岡 晃太郎	50:03.0	11	岡野 裕也	59:02.2
	29	益子 尚真	53:41.8	13	益子 尚真	1:07:51.6
	30	西村 修平	1:02:32.0			
	32	岡野 裕也	1:04:31.5			
	女子フリー5km			女子クラシカル5km		
正シード	順位	氏名	タイム	順位	氏名	タイム
	1	谷口 聖実	18:47.4	1	谷口 聖実	21:50.8
	2	加藤 杏菜	19:53.4	5	加藤 杏菜	25:37.7
	9	林 彩乃	22:38.5	7	林 彩乃	26:47.3
男子5km×4リレー						
正シード						
順位	走順	氏名	タイム	チームタイム		
6	1	滝沢 周大	17:07.8	1:10:49.9		
	2	渡邊 梓	21:03.6			
	3	西村 大佑	16:28.2			
	4	安村 悠希	16:10.4			
オープン						
順位	走順	氏名	タイム	チームタイム		
6	1	前川 舜馬	21:55.0	1:22:50.1		
	2	飯田 健人	21:35.1			
	3	谷 祥太郎	19:45.4			
	4	前川 舜馬	19:34.6			

順位	走順	氏名	タイム	チームタイム
10	1	西村 修平	25:20.0	1:39:23.2
	2	月岡 晃太郎	27:26.7	
	3	益子 尚真	23:33.8	
	4	西村 修平	23:02.6	
女子2.5km×3リレー				
正シード				
順位	走順	氏名	タイム	チームタイム
1	1	谷口 聖実	13:04.3	37:26.5
	2	林 彩乃	12:45.2	
	3	加藤 杏菜	11:37.0	

秩父宮杯・秩父宮妃杯 第98回全日本スキー選手権大会					
会場					
アルペン：大鰐温泉スキー場					
クロスカントリー：青森あじゃらクロスカントリーコース					
ジャンプ：田山スキー選手権大会矢神飛躍台					
コンバインド：田山コンバインドクロスカントリーコース					
男子2部9位 女子1部8位					
男子2部 スーパー大回転					
	順位	氏名	1本目	2本目	合計
	-	山田 唯人	DS		
男子2部 大回転					
	順位	氏名	1本目	2本目	合計
	28	山田 唯人	50.47	54.02	1:44.49
	55	澤田 真拓	50.46	54.56	1:45.02
	97	辻井 響	1:01.74	1:02.99	2:04.73
	-	岩川 雅治	DF		
	-	塩倉 颯瀬	DF		

	男子 2 部    回転					
	順位	氏名	1 本目	2 本目	合計	
	18	山田 唯人	55.08	57.14	1:52.22	
	35	塩倉 颯瀬	1:03.93	1:00.02	2:03.95	
	63	猪川 椋人	1:18.41	1:18.91	2:37.32	
	-	岩川 雅治	DF			
	-	澤田 真拓	DF			
	女子 1 部    大回転					
	順位	氏名	1 本目	2 本目	合計	
	42	鈴木 さくら	1:00.36	2:24.00	1:58.07	
	43	南雲 美里	1:00.67	1:00.46	2:01.13	
	45	尾白 梓	1:09.20	1:06.96	2:16.16	
	-	佐々木 晴菜	1:12.08	DF		
	女子 1 部    回転					
	順位	氏名	1 本目	2 本目	合計	
	35	南雲 美里	1:20.29	1:17.98	2:38.27	
	-	佐々木 晴菜	1:33.93	DF		
	-	鈴木 さくら	1:11.18	DF		
	-	尾白 梓	DF			
	男子 2 部    フリー10km			男子 2 部    クラシカル15km		
	順位	氏名	タイム	順位	氏名	タイム
	18	滝沢 周大	33:02.3	13	滝沢 周大	50:21.6
	26	吉田 溪人	34:03.7	27	西村 大佑	54:22.9
	31	安村 悠希	35:01.2	31	吉田 溪人	55:14.1
	33	高橋 昂希	35:24.2	32	高橋 昂希	55:38.6
	34	西村 大佑	35:33.5	46	安村 悠希	59:21.3
	女子 1 部    フリー5km			女子 1 部    クラシカル15km		
	順位	氏名	タイム	順位	氏名	タイム
	32	谷口 聖実	18:13.7	25	谷口 聖実	58:40.4
	33	加藤 杏菜	18:15.4	28	加藤 杏菜	1:01:14.6
	41	林 彩乃	22:21.1			

	男子 2 部   スペシャルジャンプ					
	順位	氏名	1 本目	2本目	合計得点	
	3	村上 大空	65.9	82.4	148.3	
	9	谷 祥太郎	58.3	56.5	114.8	
	-	永島 史帆	DS			
	-	高田 光太郎	DS			
	女子 1 部   スペシャルジャンプ					
	順位	氏名	1 本目	2 本目	合計得点	
	5	小澤 わかば	10.5	19.5	30.0	
	-	品川 咲季	DS			
	男子 2 部   ノルディック複合5km					
	順位	氏名	JP得点	JP順位	JP時間差	タイム
	11	村上 大空	76.8	2	0:30	21:48.3
	17	谷 祥太郎	54.2	7	2:00	24:29.2
	女子 1 部   ノルディック複合5km					
	順位	氏名	JP得点	JP順位	JP時間差	タイム
	3	小澤わかば	46.3	3	3:08	25:13.0
	5	品川 咲季	-7.1	5	6:42	31:44.0
	男子 2 部   3×5kmリレー					
順位	走順	氏名	区間タイム	区間順位	チームタイム	
6	1	滝沢 周大	15:34.1	5	45:49.7	
	2	安村 悠希	15:28.8	8		
	3	吉田 溪人	14:46.8	6		
	女子 1 部   3×5kmリレー					
順位	走順	氏名	区間タイム	区間順位	チームタイム	
9	1	谷口 聖実	17:49.0	8	53:53.3	
	2	加藤 杏菜	16:46.5	11		
	3	林 彩乃	19:17.8	10		

第79回国民スポーツ大会冬季大会スキー競技会 宮城県予選会						
本選	成年男子A 大回転					
	順位	氏名	1 本目	2 本目	合計	
	8	山田 唯人	41.68	44.90	1:26.58	
	10	渡部 新	46.08	47.22	1:33.30	
	成年男子 フリー10km			成年男子A クラシカル10km		
	順位	氏名	タイム	順位	氏名	タイム
	2	滝沢 周大	36:57.3	2	滝沢 周大	37:00.1
	4	西村 大佑	39:51.6	-	渡邊 梓	DS
	-	渡邊 梓	DS	-	吉田 溪人	DS
	-	吉田 溪人	DS			
	成年女子 フリー5km			成年女子A クラシカル5km		
	順位	氏名	タイム	順位	氏名	タイム
○	1	谷口 聖実	20:32.4	1	谷口 聖実	20:48.3
○	2	加藤 杏菜	21:59.0	2	加藤 杏菜	21:22.4
第79回国民スポーツ大会冬季大会スキー競技会 山形県予選会						
本選	成年男子A 大回転					
	順位	氏名	タイム			
	9	岩川 雅治	53.92			
第79回国民スポーツ大会冬季大会スキー競技会 茨城県予選会						
本選	成年男子A 大回転					
	順位	氏名	1 本目	2 本目	合計	
○	1	志関 弘平	32.12	33.09	1:05.21	
第79回国民スポーツ大会冬季大会スキー競技会						
成年男子A 大回転						
順位	氏名		1本目	2 本目	合計	
-	志関 弘平		DS			
成年女子A クラシカル5km						
順位	氏名		タイム			
25	谷口 聖実		18:11.0			
29	加藤 杏菜		19:27.4			

## 部長・副部長・監督紹介



青木俊明部長（国際文化研究科 教授）

一昨年度より部長としてスキー部のためにご尽力していただいております。部員一同感謝申し上げます。本年度もよろしくお願いいたします。



土屋史紀副部長（理学研究科 教授）

一昨年度より副部長としてスキー部のためにご尽力していただいております。部員一同感謝申し上げます。本年度もよろしくお願いいたします。



志関弘平監督

今年度も監督としてスキー部のために尽力して頂いております。監督として、またアルペンの一選手として練習にも参加していただいております。今後ともよろしくお願いいたします。

## 部員紹介

### 1 年生



五十嵐慧（コンバ）

「県立千葉」の誇り



稲井万理彩（ランナー）

お嬢様



菊池佳乃（アルペン）

スキー部 C5 のドン



鈴木晴香（アルペン）

お姉ちゃん大好き



関口直樹（コンバ）

失われし identity



張琛

提灯



戸内晴喜（アルペン）

バケモンのふくらはぎ



西原悠布（コンバ）

兼部のガッツ



野原直希（ランナー）

攻撃的サイドバック



野村龍平（コンバ）

タペルチ



深沢響樹（コンバ）

クール男



マシュー（ランナー）

中国語もいける



村瀬雄飛（コンバ）

ジャンプする人生



山浦大輝（ランナー）

兼サー過多



陸聖瀾

卓越した日本語力



綿引一樹（アルペン）

恋愛面でも奮闘中

## 2年生



岩川雅治 (アルペン)

岩川おじさん



佐々木晴菜 (アルペン)

道産子ギャル



鈴川蓮太郎 (アルペン)

単位が背水の陣



関口豊萌 (モーグル)

興奮するとソプラノ



高橋昂希 (ランナー)

ランナー唯一の経験者



月岡晃太郎 (ランナー)

ちゅきおか



辻井響 (アルペン)

自炊系男子



南雲美里 (アルペン)

スキー部 C4 のドン



西村修平 (ランナー)

ミスド店員



橋浦雅英 (アルペン)

バ畜



前川舜馬（ランナー）

モテ男



益子尚真（ランナー）

輝きの高校時代

### 3 年生



猪川 椋人 (アルペン)

大阪大好き



岡野 裕也 (ランナー)

白米にはマヨネーズ



尾白 梓 (アルペン)

影のアルペンチーフ



品川 咲季 (コンバ)

コンバにしか見せない恋愛事情



鈴木 さくら (アルペン)

NO 新さん NO 単位



高田 光太郎 (コンバ)

こうたろう (本物)



滝沢 周大 (ランナー)

二郎中毒



谷口 聖実 (ランナー)

ほぼコンバ



安村 悠希 (ランナー)

プレモルしか勝たん

## 4年生



今井敬裕（ランナー）

独裁政権



加藤杏菜（ランナー）

あんにゃ



齋藤瑛斗（ランナー）

胸張りダイアゴナル



澤田真拓（アルペン）

ニヤニヤ



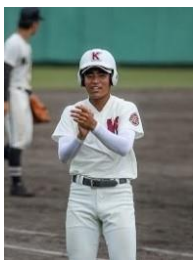
塩倉颯瀬（アルペン）

進級に成功



谷祥太朗（コンバ）

失われた前歯



西村大佑（ランナー）

逆三角形マッちょ



宮崎真瑛（ランナー）

エクセル王子



吉田溪人（ランナー）

腹出てる



渡邊梓（ランナー）

コンビニ弁当の大逆襲

## 活動報告

滝沢周大

今年度のオフシーズンについての活動報告を行ってまいります。四月、五月の新歓を経て、十六名の新入生を迎え、スキー部の規模はさらに拡大してきています。新入生の中には、アルペン経験者から全くの競技初心者、さらには留学生も複数おり、多様なバックグラウンドのもと、互いに刺激を与えあいながら練習に励んでいます。全体の活動としては、週一回の全体練習、蔵王での新歓スキー、初ジャン、萩雪ヒュッテでの夏合宿を行いました。夏合宿では一年生の部門決定が行われ、未定の二名を除いた部門の内訳は、アルペン四名、コンバインド六名、ランナー四名となりました。中でもコンバインド部門は、三年生が二名いるのみに、存続の危機を迎えていましたが、たくさんの一年生が興味をもってくれたことで、危機を脱することができました。コンバインド部門の再興により、さらに強い東北大スキー部が築かれていくことを期待しています。一昨年、昨年の大会結果に注目すると、十大戦での総合優勝を目指しながら、惜しくも逃してきています。今年はそのリベンジを果たすべく、オフシーズンの練習にも重きをおいて日々の活動を行っています。アルペン部門では、シーズンに向けて、走り込みや筋力トレーニングを中心としたフィジカルトレーニングに取り組んでいます。

ます。また、定期的にタイム計測を行い、成長と現状を把握することで切磋琢磨しながら活動しています。コンバインド部門では、通常練では陸上での練習をメインに行っています。アプローチを組むことだけでなく、ローラー台やゴムバンドを使った練習、シミュレーションなどを通してジャンプ台での動きをイメージしながら取り組んでいます。これに加えて、月に一二回実際のジャンプ台でのサマージャンプトレーニングを行い、他大学のジャンパーとお互いに刺激し合って、充実した練習ができています。ランナー部門では、主にローラー練習に力を入れています。例年、オフシーズンの前半は、フォーム練習を重視した結果、スタミナ不足になりがちであったため、技術的なポイントを抑えつつ、距離を踏むことを意識しています。

しかし、練習に励んでいく中で、スキー部の規模が大きくなったことによる課題が見えてきている状況です。例えば、ローラースキーやジャンプスーツなどの道具の不足、上級生に対して下級生が格段に多いことによる教え手の不足が挙げられます。現在、これらの課題に対処すべく、上級生を中心に連携し、クラウドファンディングサービスやスポーツ活動助成金の活用を視野に入れ、吟味を進めています。

すでに、複数の企業が協賛についてくださり、金銭的支援をしていただいています。合宿で使用するヒュッテの管理や維持なども含め、私たちの活動は多くの人のお力添えがあって成り立つものであることを自覚し、感謝して活動していきます。部員それぞれが目標

に向かって励んでいきますので、今後とも応援、ご支援のほどよろしくお願いいたします。

## 幹部文

### アルペンチーフとして

鈴木さくら

今年度のアルペンチーフを務めさせていただきます、鈴木さくらです。アルペンの幹部代は三人いる中で、経験者だから、という理由だけでチーフになってしまったので、部員からすると頼りない面もあるかもしれません。自分でも頼りないなあと感じますが、私なりに精一杯頑張りますのでどうか怒ったりせずに協力していただけたら嬉しいです。

さて、今年度のアルペン部門の話に移ります。今年度のアルペン部門の目標としては、十大戦では全員ポイント獲得を目指したいです。スキー部全体の目標である「十大戦総合優勝」を成し遂げるにはアルペン部門もたくさんポイントを獲得して貢献する必要があります。アルペン部門はリレーがない分、種目数が少ない上に出場人数が多いのでたくさんポイントを取るのには難しいですが、一生懸命トレーニングに取り組む我々なら不可能ではないと思います。特に女子は昨年叶えられなかった表彰台独占を達成したいです」

次にインカレでは男子二部ポイント獲得、女子一部三十位以内を目指したいです。インカレは十大戦と比べ物にならないくらいレベルが高く、昨シーズンは一人もポイントを取れませんでした。今年度はオフトレからコンディションを整えて、レベルアップしている部員が多数いると思うのでぜひこの目標を達成したいです。

次に結果以外の目標になりますが、とにかく雰囲気の良いアルペンを作りたいと思っています。冬の合宿、遠征中は一ヶ月以上部員と共同生活を行い練習に取り組みます。みんな疲れが出てきて雰囲気が悪くなってしまうこともあります。相手の気持ちを考えて接したり、感謝の言葉を伝えたり、人として基本的な礼儀を忘れずに過ごせればいいな、と思っています。これを心がけることによって部門の雰囲気も良くなると思いますし、より充実した練習になるはずです。部活という環境は技術以外の、人間力も高められる場所です。アルペン部門での活動を通して人としてもお互い高めあえる環境を作れたら嬉しいです。そのために、まずは私がこれらのことを心がけて取り組んでいきたいです。一年間よろしく願います。

## ランナーチーフとして

滝沢周大

今年度、ランナーチーフを務めさせていただきます、三年滝沢周大と申します。主将と兼任という形で活動してまいります。

私はランナーチーフとして、「他大学と勝負でき、競り勝てるランナー」を作ること活動を軸としていきます。今年度のランナー部門の目標は、十大戦のクロカン種目の総合得点でトップをとることです。昨年度の大会成績を見ると、十大戦、インカレともにポイントを獲得できたものの、クロカン種目の総得点をみると複数の他大学に及ばない結果となりました。さらに、昨年度の主力であった四年生の大半が引退し、部員の多くが、あまり実戦を踏んでいないという状況にあります。

この現状から、他大学に勝てるチームにするには、競争する雰囲気を作ることが大切だと思います。幸い、東北大学のランナー部門は部員が十分いますし、今年度もノルディック志望の新入生が十人以上も入部してくれました。しかし、逆に言えば、十大戦・インカレの正シード争いがより熾烈になります。このことを冬になってから意識するのではなく、オフシーズンのうちから頭に入れ、継続的に練習を行っていきけるよう動機付けをしていきたいと思っています。そして、下級生からのたたき上げで、上級生により一層努力しなければならぬという思いをさせるところまでが理想と考えています。

また、今年度のトレーニングとして、昨年度と同様、週二回のローラーと、週一回のラントレを継続します、さらに、ローラーでのタイムトライアルを定期的に行います。これはローラーで実戦のイメージを培い、早いうちから冬を意識させるという意図があります。そして、秋からは、週一回泉ヶ岳でのローラーを実施します。

ここまで、割とスバルなことを書いていますが、主体的に部活を続けようという気持ちの根本にあるのは、楽しいという感情であると思います。人によって、どこに楽しさを見出せるかは違うと思いますが、クロカンの疾走感、達成感、仲間との時間のすばらしさを実感してほしいと思います。ランナーチーフとして、部員の皆が、最終的には「ランナーを選んでよかった」と思えるようなチーム作りを目指していきます。

最後になりますが、日々ランナーの活動を応援してくださっているOB・OGの方々、絆を貸してくださる清水さん御夫妻、協賛してくださる企業様に厚く御礼申し上げます。ご期待に応えられるよう、日々の練習に励んでまいります。今後とも応援のほどよろしくお願いいたします。

## コンバインドチーフとして

### 品川咲季

コンバインド三年の品川咲季です。今年度のコンバインド部門チーフを務めることになりました。よろしくお願い致します。

さて、ここからは今年度の目標や大切にしていきたいと考えていることについて述べていきます。まず、部門の人数を増やすことが大きな一つの目標です。現在、コンバインド部門は現役部員の人数が私と同期の高田の二人と少なく、引退した先輩方の力を借りてなんとか合宿やシミュレーションなど日々の練習ができている状態です。ありがたいことに、スキージャンプやってみたい！と興味を持ってくれている一年生がたくさん入部してくれたので、まずは部門決定に向けて魅力をたくさん実感してもらえるように頑張っていきたいと思います。次に、自分で明確な目的を持って練習できるようにしたいと思います。コンバは合宿で必ずビデオ鑑賞会をしています。また、昨年度は部内用インスタグラムアカウントを作成し、合宿ごとに前回の合宿の振り返り、次の合宿での目標を動画とともに共有しました。これらにより、自分自身の中で「何をやったら何ができるようになったのか、またはできなかったのか」「今できるようになりたいことは何か」を言語化することができています。ビデオ鑑では様々な壁にぶち当たって、それを乗り越えてきた先輩方が一緒に課題と向き合ってくれて、アドバイスをしてくれます。外部

コーチの方に指導していただける機会もあります。素晴らしい環境を先輩方が築いてくれたので、それに甘えることもできません。

しかし結局自分がどうなりたいかが一番重要です。シミュレーション一本ジャンプ一本、その一本を飛ぶのをどういう練習にしたいのかという目的を自分自身で明確にすることで、ただなんとなく練習をこなすのではなく、より集中して変えたいところに意識を向けることができます。限られた時間、特にジャンプ台での練習は限られた場所での練習となるので、成功でも失敗でも、得られることを少しでも多くして、充実した練習ができるようにしていきたいです。最後に、競技を楽しむということです。うまくいくこともあれば、伸び悩むこともあって、楽しいだけではありません。それでもなぜスキージャンプをするかと言ったら、それは競技が好きで、うまくなりたい気持ちがあるからです。成長を実感したときの達成感があるって、ふとしたときにジャンプ楽しいなって何度もあります。先輩後輩関係なく、みんなで切磋琢磨しながら、楽しんでうまくなれるような雰囲気も作っていききたいです。

ここまで長くなってしまうましたが、スキー部の活動を支えてくださっている皆様への感謝を忘れず、日々精進して参りますので、応援よろしくお願い致します。

## 部員文

一年生

### スキー部のマレーシア人

マシュー・テー・ヤン・チュアン

こんにちは、工学部機械知能・航空工学科一年生マシュー・テー・ヤン・チュアンです。マレーシアの出身で、今年日本に来たばかりです。あまり書くことはありませんが、一応自己紹介をさせていただきます。

最初からスキー部に入部した理由を書きたいと思います。スキー部に入った理由は、スキーに興味があるからです。マレーシアは一年間を通して夏で、温暖な気候です。冬が降らない国でもちろん冬スポーツをする機会がありません。日本に留学することをきっかけにして、スキーを始めようと思いました。

次に、自分の好き嫌いを紹介いたします。趣味としては、ゲームをすることです。様々なゲームをやりますが、FPS (First Person Shooter)、日本語では一人称シューティングゲームと翻訳できます。その中では、CS2とヴァロラントというゲームをやります。FPSだけでなく、他のジャンルのゲームもやります。その後、料理するこ

とも最近趣味になりました。日本に来てから自炊を多くやって、色々な料理を作ってみました。例えば、マレーシア、日本、タイ、韓国、イタリア、インドなどを作りました。そして、マレーシアに人気なスポーツはサッカー、バドミントンなどです。自分はバドミントンが好きです。

それから、自分が嫌いなことは人前で話すことです。自分が実はだいぶ恥ずかしくて内気な人からです。話す相手は知らないかもしれないが、私は自分なりに会話を頑張っています。そして、嫌いなものはあまりないですが、何年前は玉ねぎが嫌いでした。食べたらずくほど嫌いでした。しかし、好き嫌いが多い人になりました。なので、頑張って食べて、今は我慢できるようになりました。

文章を書くところで、日本に三ヶ月経ったばかりで、まだまだ文化と言語に慣れています。東北大学のほかの留学生と比較して、自分の日本語はまだまだと思います。なので、日本語、スキー部、学習、いろいろなところで頑張りたいです。

まだ二百字ほど書かなければならないので、マレーシアのいいところを紹介いたします。マレーシアは多民族の国で多文化です。それで、もちろん美味しい料理も多くあります。マレー、中華、インド、フュージョン料理でも多くあります。それに、マレーシアの文化は日本と比べてそれほど高くないので、マレーシアに行く場合は、美味しい料理が多く味わうことができます。そして、マレーシアは気温があまり変わらないため、冬準備などは必要ありません。

まとめとしたり、これからはいろいろなところで頑張ります！

## 自己紹介

### 稲井万理彩

はじめまして、東北大学農学部一年の稲井万理彩（いないまりあ）です。この度、スキー部に入部いたしました。よろしくお願ひします。今日は私の留学経験について紹介させていただきます。出身地は東京都、出身高校は白百合学園高等学校です。出身が白百合と言うと必ず「お嬢様だね！」と反応されますが、私は声を大にしてい言いたいです。白百合は世間からなぜかお嬢様と言われていますが、実際は外面が良いだけで全然お嬢様じゃないです。中身は普通の女子高なので、すごくうるさいです。ちなみに、私は年中から白百合に入ったため、白百合歴は驚異の十五年です。年中から高三まで女子高で過ごしたので、女子高歴では誰にも負けません。ところで、算数が得意な方は、十五年という年数に違和感があるかもしれません。単純に計算すると十四年のはずなのですが、私が十五年に渡って白百合で過ごした理由は、高校二年生の時に一年間カナダに留学をしたからです。留学をした理由をよく聞かれますが、留学が決まったらスマホを買ってあげるよという母の言葉に惹かれすぎたことが、最初私が留学を志した理由です。不純すぎる動機ですが、

それで簡単につられる私も単純ですね。元々両親が私のお粗末な英語力を危惧して英語圏に留学させようとしていて、私は両親にうまく転がされて願書を送り、気付いた時にはカナダ行きが決まっていました。結局私も留学が決まってから心を決めて、高校を一年休学して留学に行きました。そのまま元の学年に戻ることもできたのですが、敢えて休学を選択したのは、進路決定までの猶予が欲しかったのと、単位認定などを考えず一年自由に過ごしたいと考えたからです。留学中は日本にいたらやらないであろうことに片っ端から挑戦する一年にしようと思ったので、バレエサークルに参加したり、チャリティーパーティーを学校で開催したり、ドラムを習ったりと、充実した一年を過ごしました。恐らく今までの人生で一番自由に過ごすことが出来た一年だったと思います。帰国後は一個下の学年に入ったのですが、同じ学校にいるのに転校をしたようなすごく不思議な感覚でした。私の高校では留学をする人はまあまあ多いのですが、休学をする人は珍しく、私が二十年ぶりというレアぶりでした。ですから、学期が始まってから一か月は、校内のどこにいてもすれ違うすべての先生にガン見されるという非常に面白い体験をしました。様々なことがあった留学ですが、今思い返しても私にとって圧倒的にプラスになる経験だったので、ぜひ少しでも興味がある方は留学に行ってみることをおすすめします。

## 薄い自己紹介

菊池佳乃

はじめまして、今年度スキー部に入部した工学部機械知能航空工学科一年の菊池佳乃と申します。出身は東京都小平市。区ではないしこっちに來てから同じ市出身の人以外だと東京の人にすら「どこそれ？」という顔をされるくらい知名度の低い住宅街です。都内なのに新宿駅まで特快に乗っても四十分かかります。あえて何か言うとしたらブルーベリーを日本で初めて作った場所、使用できる丸ボストの数が日本一、ということくらい。ブルーベリーは確かにおいしいけどそんなに頻繁に食べるものでもないので正直そんなに恩恵は受けてないように思います。近所の果樹園の梨はめっちゃおいしいので毎年買っていました。地域の紹介が完全にのどかな土地のそれになりつつありますが私は小学校から十二年間電車通学だったため人混みが大嫌いで自然と利便性を兼ね備えた仙台にずっと憧れていました。小学生のころから憧れだった仙台に暮らして東北大にいられることがとても幸せです。

出身地の次は出身校について話します。小学校は国立音楽大学附属、中高は都立武蔵です。音大附属の小学校とはいっても音楽の授業が週四回あったり各教室にアップライトピアノがある以外はほとんど普通の小学校でした。私立ですが制服はありません。先生の移動がないので卒業担任にいまだに会いに行けるのは魅力です。ただ

音楽の道に進む気は微塵もなかったので中学は受験して都立武蔵に入学しました。武蔵は私立の男子校があるため、男子は大学入学時に相手が勝手に株を上げてくれるらしいです。女子は首を傾げられるだけです。中学にはぎつちぎちの校則があり、高校には片手で足りる程度の校則しかないのが特徴です。高校の校則の例を挙げると「他校の制服を着てこない」「上履きで校庭に出ない」などがありました。私は三年間の信頼の蓄積を信じて入学式から赤髪でした。高校三年間で黒髪の期間の方が短いと思います。高校のクラスメイトが同じ学科にいますがたとえ私がまた髪を染めたとしても何も言ってくれないことでしょう。

これまでの私はだらだらテニス部と水泳部のぬるま湯につかってきました。水泳部に至っては試合の翌日みんなでおしゃべりしながらコースをただただ歩いていたので、顧問に「休日の市民プールにいるお年寄りか」とまで言われました。それに対してスキー部は和気藹々としながらもメリハリがあって居心地よく真剣に部活に打ち込める素晴らしい環境だと思います。これから明るく楽しく真剣に頑張っていきたいと思います。よろしく願います。

## 自己紹介

### 五十嵐慧

初めまして。理学部地球科学系一年五十嵐慧です。生まれは千葉の幕張本郷で、育ちは幕張です。あの幕張メッセやマリンスタジアムがある幕張です。ほかにも国内最大級の大きさを誇るイオンモール幕張新都心があったり、ラウンドワンやカラオケなどの娯楽施設があったり……とにかく何でもあるところです。出身校は千葉県立千葉高等学校です。高台にあり、登校するときに一膳坂と呼ばれる急坂を上らねばならないので、登校が厳しかった記憶があります。高校時代はバスケット部に所属しており、よく走らされていました。練習がきつく、特に真夏の体育館は三十五度を超えていたのでなかなか大変だった記憶があります。当時はきつかったですが、今ではいい思い出です。

さて、ここからは僕の少し変わった経歴を紹介させていただきます。僕は五歳のころからバイク好きだった親の影響で子供用のバイク、ポケバイに乗っていました。平日は普通に学校に行き、休日は千葉や埼玉などにあるサーキットに出かけて練習をしていました。当時とはとにかく速く走れることがうれしくて結構頻繁に練習に行っていました。そしてその後は勉強ができたこともあり中学受験をしていたのでバイクからは離れていました。その後、中学二年生になってからミニバイク（NSF100）にステップアップし、サーキット

に練習しに行っていました。いまはもう乗ってはいませんが、免許を取ったらまた乗ってみようかと考えています。また、バイクをやっているうちに、ロードレース世界選手権 MotoGP も見るようになりしました。現在は、最高峰クラスに日本人ライダーが一人参戦しています。迫力があって面白いので今度皆さんも見てみてください。バイクってこんなに倒れるの、こんなにスライドしながらブレーキングするの、こんなにスピード出るの、など驚きが待っていると思います。

最後に、スキー部に入った理由について書きたいと思います。僕は小さい頃から家族でグレンデスキーに行っていたため、スキーは経験したことがあり、面白いと思っていました。また、スキー部の先輩方や同期が優しく接してくれたのもあり、その雰囲気惹かれ入部を決めました。至らぬ点もあると思いますが、練習に真剣に取り組み、実力向上に向けて頑張りたいと思います。

## 自己紹介

### 山浦大輝

こんにちは！東北大学工学部化学・バイオ工学科一年の山浦大輝です。東京都小金井市出身です。せっかく千字も書けるので軽く僕の出身の小金井市について紹介していこうと思います。小金井市

は東京都のほぼ中央に位置していて、桜並木が有名です。春になると小金井公園という結構大きな公園で桜と梅を楽しむことができます。中央線沿いということで、高校が電車通いということもあり、毎日乗車率驚異の150%ともいわれる満員列車につぶされながら通学していました。なので、現在青葉山から通学していますが、すいてとても快適です。

僕の出身地の話はここまでにしてまず東北大の化バイ学科、そしてスキー部に入った理由について書いていこうと思います。東北大に來た大きな理由の一つに一人暮らしをしてみたいということでも不純な理由があります。親から離れて暮らしてみたいというのと料理が好きなので自分で料理をしてみたいと思ったからです。しかし現在一人ぐらしを初めて三か月慣れてきましたが、洗濯であったり料理であったり毎日やってみると大変で、遠足も帰るまでが遠足といいますが、料理や洗濯も洗い物だったり、干すのであったりがとくに変で、これまでの自分が親にどれほど依存していたかを実感しています。しかし、一人暮らしは大変なものですが自由なのもそうで、ハンバーグとか餃子とかオムライス、自分が愛してやまないプリンとか自分の好きな料理を作ったり、夜に釣りに行って朝に帰ったり自由を謳歌できるのは最高です。釣りはここに来てから始めたのですが、釣ったチャリコやメバルカサゴを鯛めしにしたり、煮込みにしたりして、なかなかできない経験ができています。

次に今の学科に入った理由として、生物工学とくにバイオミメテイクスがやりたくて入りました。工学部なので。化学と物理で入っ

た関係上生物工学やりたいのに生物を忘れてなかなかやばいですが、大学の授業でしっかり身に付けていこうと思います。

## 自己と吉祥寺紹介

深沢響樹

初めまして。新しくスキー部に入りました、深沢響樹です。学部は文学部です。出身高校は東京農業大学第一高等学校という私立高校で、出身地は東京都三鷹市です。高校は世田谷区にありこの地域に精通している人なら「世田谷の真上じゃん」となると思うのですが高校には一時間かけて行っていました。遠かったですね。とにかく高校の最寄りの駅から高校まで十五分歩くのが大変でした。

出身の市は三鷹市なのですが、三鷹駅を使ったことは片手で数えられるくらいしかなく、もっぱら吉祥寺駅を使っていました。なので勝手に吉祥寺出身だと思っています。そこで吉祥寺についてお話ししようと思います。

吉祥寺といえば住みたい街ランキングで常に上位に挙げられる街という印象が強いかと思います。これはある意味で住みやすく、ある意味で住みにくいのです。住みやすいところから言いますと、まず吉祥寺に行けばほぼなんでもあります。一生吉祥寺からでなくても住んでいけるくらいにはあります。むしろ一部については過剰なく

らいです。例えばユニクロとGUはそれぞれ二つあります。ABC-MARTにいたっては五つあります。ある店舗になくても違う方に行けばある、みたいなことはたまにありますね。また雑貨屋や大型の商業施設が多くあることも住みやすい環境を作っているとおもいます。さらに井の頭恩賜公園があることで自然に近いのも住みやすい環境を作っていると言えるでしょう。受験生にとっては重視されがちな塾ももちろん多いです。河合塾現役館（ここに通っていました）、河合塾マナビス、運営元を近くに持つ東進、駿台現役フロンティア、四谷学院、武田塾など大手でも一通り揃っています。反対に住みにくいところをあげますと住みやすい要因全てが裏目に出ていることです。何かを少し欲しいだけでも複数回らないといけなかったり、休日は特に井の頭公園や街が少し遠くから足をのばして来る人で混雑します。

高校で吹奏楽部に入っていたこともあり、大学でも吹奏楽部に所属しています。スキー部では、吹奏楽部との両立とまづは一年間しっかりと基礎を固めていきたいと思っています。また怪我をしないように努めます。怪我をすると全てに支障をきたすので。吹奏楽部ではホルンを吹いているので、もしよければ定期演奏会やサマーコンサートなど聞きに来てください！

## 自己紹介

西原悠布

初めまして、医学部保健学科看護学専攻一年の西原悠布です。出身は宮城県仙台市で、大学には実家からチャリで三十分かけて通っています。生まれてから二十年間ずっと仙台に住んでいるのにあまりに狭い範囲で生きてきたもので、仙台のいいところはん屋さんも少ししか知らない上に普通に街中で道に迷ったりします。そんな私が思う仙台の良いところはちょうどよく栄えているし中心部から少し離れると静かな住宅街や田んぼがあったりして住みやすいところだと思っています。仙台駅が徒歩圏内なのですが、東京駅まで時間距離で言うとかかなり短いので便利な所に住んでいたのだと最近思うようになりました。

次にスポーツ歴についてお話ししたいと思います。小さい頃から体を動かすことが好きで幼稚園の時に体操クラブ、小学校で空手を一年、水泳を二年、なぎなたクラブ一年、中学高校では剣道をしていて、特に剣道は大学でも週一で続けています。高校生の時は剣道の稽古に明け暮れていました。剣道について高一の夏から顧問の先生の勧めで構え方を中段から上段に変えたのでほぼ一からのスタートのような感じでした。しかし、別名「火の構え」とも呼ばれる上段の特徴である守りを捨てて攻めに特化している点が私には合って

いて好きでした。稽古で培ってきた筋力や忍耐力、メンタルの強さはスキーでも生かせるかなと思っています。

スキーについては幼稚園くらいから家族とゲレンデで滑っていて、小学生の時は毎年冬にキャンプに行くくらいでした。中学に入ってから部活の方が忙しく、年に数回しか滑れていなかったのがあんまりそこからの成長はなかったかなという感じです。大学に入ってスキー部に入部しようと思ったのは、しっかり競技としてスキーをしてみたいと思ったからです。最初に入ろうと思ったときはアルペンに行きたいと思っていましたが、コンバインドの説明を聞いた後、スキージャンプの映像を見たりしてこっちがいいかもと思い始めました。先日初ジャンプでスモールを飛んでみて、一回も立ったまま止まることはできませんでした。それでもとても楽しくてコンバインドに入りたいという意思が固まりました。私は体力が全然足りないなと思っているので、夏の練習で技術はもちろん体力をしっかりつけて練習についていけるように精一杯頑張りたいと思います。どうぞこれからよろしく願います。

## 自己紹介／ゆかりの地、浦河と自身について／

村瀬雄飛

初めまして、工学部建築・社会環境工学科一年の村瀬雄飛です。出身は北海道で育ちはほとんど札幌市ですが、一年ずつ千歳市と浦河町に住んでいました。とはいっても幼稚園の年少、年中の時であり、悲しいことに当時の詳細は覚えていません。特に千歳に関する記憶はほとんどありません。札幌についてはご存じの方が多いと思いますので、ここでは少し浦河町について紹介させていただきます。浦河町は北海道の下の方の日高地方にあり、海に面したのどかで過ごしやすい田舎町です。浦河町といえば、なんといっても馬が有名です。競走馬を多く輩出しており、「優勝の里」と呼ばれているそうです。僕も当時、乗馬公園でポニーと呼ばれる小さい馬によく乗せてもらっていました。また、優勝桜ロードと呼ばれる桜並木があり、ゴールデンウィーク頃に桜が満開を迎えます。ここほど綺麗な桜並木は今まで見たことがありません。ぜひ行ってみてください。最後に個人的に最も印象に残っているオロマップキャンプ場について話します。このキャンプ場はクマ出没多発地帯にあります。なぜそこにキャンプ場をつくったのか、不思議でなりません。怖すぎます。あるとき、このキャンプ場で小川のせせらぎを聞きながら歩いていると、僕は突然蛾に襲われました。それは当時の僕の顔は

どの大きさがありました。僕は順調に逃げ回っていましたが、突然視界が真っ暗になりました。僕は沼に落ちていました。全身びしょびしょな僕の姿を見て、満足したように空高く舞い上がっていったあの蛾は、間違いなくクマよりも危険でした。人生で最も印象に残っている思い出といっても過言ではありません。

浦河の話が長くなりましたが、ここからは自身について話そうと思います。僕は北海道出身ということもあり、幼いころからスキーに触れていて、ニセコ、キロロ、ルスツ、朝里など色々なスキー場に行っていました。とはいえ競技の経験は全くありません。中学校では硬式テニス部、高校ではバレーボール部と、ずっと運動部に所属していましたが、体力面には問題があります。これには深い理由があります。僕を特徴づける最も簡単な肩書きは、おそらく「二浪」です。今のところスキー部では唯一無二の称号と認識していますが、この称号はつまり三年間まともな運動をしなかったことを意味しています。失われた体力をいち早く取り戻すことが僕の第一課題といえるでしょう。

僕の志望部門は今のところコンバインドです。初心者なので先輩たちについていけるよう精一杯頑張ります。よろしく願います。

わたひきです！

綿引一樹

はじめまして。工学部材料科学総合学科一年の綿引一樹です。新入生なので、自己紹介を中心にしようと思います。

最初に苗字について、「わたひき」「わたぬき」など、色々な呼び方をされますが、「わたひき」です。全国で八千人ほどの微妙なレアリティの茨城由来の苗字です。茨城の常陸太田という、一部東北電力が進出している南東北な田舎から来ました（実家は東京電力の地域）。

私は二歳の時にスキーを、小学四年生にアルペンを始めました。雪無し県住みにも関わらず、かなり長いスキー歴の持ち主です。というのも、私の父がスキー大スキーな人で、私の名前もプロスキーヤーの渡辺一樹さんから取ってつけたとのことなので、当然と言えば当然の成り行きといえましょう。全中のせいで、せっかく同級生にカッチョイイ所を見せられるはずだったスキー合宿には参加できていませんが…。

他のスポーツについては、これまでクラブや部活などにおいてテニス、バスケ、バドミントンに取り組んできました。スキーができない夏のスポーツという感じで取り組んでいましたが、高校生になって始めたバドは高二の時にハマってしまい、スキーの夏のスポーツの域を超えていました。

私はオタクの性をもっているようで、なにかにハマるとかなりのめり込む癖があるようです。

バドについては上手くないのにも関わらず、今やラケットは九本に、ドイツ語選択ですが、バドの内容なら中国語もとりあえず理解できるようになり、おそらく東北大では一番のバドオタクとなっているハズです。バドに関する相談は、いつでも乗りますのでぜひ相談してください(笑)。一応競技は高校で引退とし、サークルでの活動を始めたので、「バド部じゃないけど、なんか上手くてオシャレなプレーをする奴」を目指してほどほどに頑張ります。

幸い、スキーに関しては道具一つ当たりの値段が高く、購入難易度が高いため、ここまで道具オタクにはなっていませんが：早速選手モデルの板と新品のブーツを買ってしまったため、これからどうなるかは分かりません。もしかしたら、このスキー部への入部で、ガチオタクへの第一歩はすでに…。

受験期は運動不足に加え、受験の事を考えてよくお腹を痛め、食べる量が激減したせいで筋肉、脂肪共に落ちてしまったので、しっかり体を鍛えて冬を迎えたいと思います。「綿引ほっすい」といわれると地味にグサリとくるものがあるので、早く言われなくなるように頑張ります。

## 自己紹介

野原直希

はじめまして、この度東北大学学友会スキー部に入学しました、工学部の建築・社会環境工学科一年、野原直希(のほらなおき)です。書くことが思いつかないので、簡単な自己紹介をさせていただきます。

栃木県出身です。栃木県のイメージといったら多くの人が「日光東照宮」を浮かべるかもしれませんが、私の実家のある栃木市は県南にあるので日光東照宮まで車約二時間かかります。行ったことのない方は是非行ってみてください。有名な三猿(見ざる、言わざる、聞かざる)だけでなく、眠り猫や陽明門などたくさん見どころがあります。また、栃木県はイチゴの生産が盛んです。栃木県民が他県民と比べてどれだけ多くイチゴを食べるかわかりませんが、私自身、春になるとよくイチゴを食べていました。小学校の学校行事でもイチゴ狩りがあった記憶があります。

出身高校は栃木県立栃木高等学校です。栃木県の県南に存在する歴史ある男子校です。私の代が百二十六期生でした。また、栃木高校名物に栃高耐久レースがあります。栃木市内を走る全長27kmの持久走大会です。27kmの道のりも始まってしまえばあっという間で、友人らとともに切磋琢磨し走り抜けた思い出深い学校行事の一

つです。栃木高校での三年間は、部活と勉強に勤しんだとても充実した三年間でした。

野村龍平

ここからは私のスポーツ歴について話していきたいと思います。私が本当に小さい時はダンスをしていました。ダンスをしていたとは言っても、小さすぎてダンスのことはほとんど覚えていませんし、急に踊ってと言われても何も踊れません。幼稚園の年中から小学六年生までは水泳を習っていました。水泳のおかげで体力がついたと思います。得意な泳法は背泳ぎです。小学一年生から高校三年生まではサッカーをやっていました。サッカーが一番長く続けたスポーツです。ポジションはサイドバックやボランチなどいろいろなポジションをやらせていただきました。今でも、浦和レッズの試合はよく見ています。サッカーが好きなのは話しかけてください。また、スポーツではありませんが小学三年生から小学六年生まではそろばんもやっていました。準三段持っています。そろばんも長い時間集中して計算ばかりしなくてはいけないので、ほとんどスポーツです。

これまでのスポーツ歴を見ての通りスキーはほとんどやったことがありません。数年に一度家族でゲレンデを滑っていたくらいで、クロスカントリーに関しては完全に初心者です。そんな私ですがスキー部に貢献できるよう全力で取り組むので今後ともよろしくお願います。拙い文章ですが最後まで読んでいただきありがとうございます。

## 「2026の自分へ」

楽しんでいますか？

あなたがそう感じてくれていたら嬉しいです。スキー部に興味を持った「きっかけ」でもあり、入部する「最後の一押し」ともなったのは「楽しそう」という純粹な好奇心でした。新入生オリエンテーションの頃はバスケットボールか武道をやると思気込み、ウィンタースポーツには見向きもしていなかったあなた。そんな中あなたはスプリングフェスティバルでスキー部と出会い、ローラー体験で口車にのせられ、スキージャンプの魅力には心を鷲掴みにされました。一時間足らずでスキー部に引き込まれバスケット部すら見学せずその日は帰宅しました。

先輩方とはとてもフレンドリーで親しみやすく、コンバの先輩には「やるならコンバの子」と覚えてもらいました。半月が過ぎ、ついにはスキー部を超える魅力を感じた団体はなく、わたしは無事スキー部に入部しました。

しかし実際に活動してみると理想のスキー生活とは程遠く、重心の位置が定まっていなかったためにアスファルトの少しの引っ掛かりで体勢を崩してしまい、とても滑れているとは言えない状況でした。ですが先輩たちや同期からの応援、温かいアドバイスもあって楽しく日々のトレーニングに励めました。鹿角合宿では足で地面を押す

感覚や正しい姿勢を教えてもらい、最終的には2kmのコースを何とか滑りきることができた。成長しました。

・・・そして迎えた運命の日。朝早い集合で田山に向かう。長く待ち侘びていた喜びと不安の板挟みにされながらスーツに足を通した。午後になりついに助走路に立ったが、思いの外緊張はない。スタートバーに座った後は恒例の儀式を行い、不恰好なアプローチを組みスモールヒルを飛んだ。・・・計五回ほど飛び五回とも転倒したがとても楽しい時間でした。

そしてこんなにも楽しく充実した大学生活、部活動ができているのもある先輩のおかげだということを忘れないでください。こんなにも輝かしい世界を教えて引き込んでくれたのも、一度諦めかけた時に嫌な顔一切せず真剣に話を聞いてくれたのもその先輩でした。何度も相談に乗ってくださってありがとうございます。感謝してもしきれません。

最後に。何かを選択するときには自分に正直になってください。周りの環境や声に耳を傾けるのも大事ですが最終的にはその選択に満足するのも後悔するのもあなた自身です。困ったときはどちらが正しいかではなくどちらが楽しいかを考えてみてください。

## 自己選択

陸聖瀾

初めまして。東北大学スキー部に入部しました、法学部一年の陸聖瀾（リク セイラン）です。何を書けばよいか少し迷いましたが、私の経歴や留学の経緯、そして入部の理由についてお話しすることで、少しでも私の人柄を感じていただければ嬉しいです。

私は中国の浙江省出身で、十八歳までずっと中国で育ちました。

二年前、日本語学校への進学をきっかけに京都に来ました。日本の生活にはだいぶ慣れてきたと思いますが、日本人の学生と接する機会はほとんどありません。そのため、これからスキー部の同級生や先輩たちと交流できることに、不安もありますが、それ以上に楽しみな気持ちを抱いています。

私は小学生の頃、市の水泳チームに所属していて、毎日の厳しい練習に取り組んでいました。正直、当時は訓練が大嫌いでした。それでも続けられたのは、仲間と一緒に合宿や大会を目指して努力する経験がとても魅力的だったからです。この経験は今でも印象に残っています。

中学以降は勉強中心の生活となり、運動の時間はほとんどありませんでした。それでも受験競争は非常に厳しく、私も中学、高校受験を経て高校に進学しましたが、このままでは未来への希望も持てない、ただの凡人になってしまうのではないかと感じるようになり

ました。そして、「自分の人生は自分で決め、自分でつくる」という強い思いから、日本への留学を決意しました。今振り返ると、その決断は少し無謀だったかもしれませんが、これまで一度も後悔したことはなく、むしろ感謝の気持ちでいっぱいです。

それは、自分の意思で選んだ道だからだと思います。部活動の選択も、その結果として受け入れてほしいです。スキー部に入学した理由は、刺激的な運動を通じて、人生を無駄にせず、生き生きと過ごしたいという思いがあったからです。口で言うのは簡単ですが、それを実現するには、朝練や怪我への不安を乗り越える覚悟も必要です。もちろん、今は足首を怪我してしまい、トレーニングもまだ本格的には始められていません。今の段階ではあまり語れる立場ではありませんが、とにかくこの四年間を後悔のないよう、真剣に取り組んでいきたいと思っています。だからこそ、挑戦する気持ちを大切にしながら、学業と部活の両立を目指して全力で頑張ります。これから、どうぞよろしくお願いします。

## 自己紹介

鈴木晴香

初めまして。農学部一年の鈴木晴香です。まず、自己紹介をしようと思います。

出身は長野県上伊那郡南箕輪村です。村出身の田舎者です。ですが、私が住んでいた南箕輪村には良いところがたくさんあります。自然が豊かで南アルプスを一望できる点、子育て支援が充実しており今でも人口増加が進んでいる点、あたたかなコミュニティが築かれている点などなど。村一番の観光地はやはり大芝高原です。過去のゆるキャラグランプリで最下位を取った赤松の妖精「まっくん」が誕生した地で、アスレチックや温泉、直売所、スポーツ施設など設備が充実した道の駅です。みなさん是非一度訪れてみてください。

次に、私の歩んできた人生について。私は親の影響で四歳からスキーを始めました。私が通っていた小学校、中学校、高校にはスキー部がなかったため、小学校、中学校では薮原ジュニアスキークラブに所属していました。冬はスキーがメインになりますが、小学校では習い事として水泳とピアノを行い、中学校では陸上部に所属し、高校では硬式テニス部に所属していました。いつも新しいことを始めたくなってしまうため、小さい頃から行ってきたスキーを新生活で部活動として始めるのは初めての試みです。実家の近くにもスキー場はありましたが、リフトが二本の小さなスキー場だったため、木祖村にある薮原高原スキー場まで車で四十分ほどかけて通っていました。長野県で有名な白馬高原スキー場、野沢温泉スキー場などからはかなり遠く、ご存知でない方も多いかもしれません。薮原高原スキー場は長野県の南のほうに位置するため、日本海側とは異なり、乾いた雪が極寒の中降り積もります。薮原高原が誇る

Team911 が素晴らしいピステを毎日かけるため、バーン状態は最高です。これまで様々なスキー場を訪れてきましたが、やはり藪原高原に勝る雪質はなかったと思います。さらに今年度はグレ食バトルで藪原高原の「トマトチーズキン」が優勝しました！長野県でスキーをする機会があれば藪原高原スキー場に行きましよう！  
大学でスキー部に入部したのは、家族に勧められたこと、運動部に入りたかったこと、そして何より先輩方や同期の仲間が仲良く優しく接してくれたことがあるからです。夏も冬も練習に真摯に取り組み、自らの実力を少しでも向上させていければ良いと思っています。常に笑顔で前向きに活動を行います！よろしくお願いします

## 自己紹介と地元紹介

### 戸内晴喜

初めまして。理学部物理系に入学した一年の戸内晴喜（このうちはるき）です。スキー部には競技の経験が無い状態で入部したので、ここでは地元についてと今までのスポーツの経験、入部した理由について書いてみようと思います。

出身は神奈川県横浜市神奈川区です。「神奈川」という文字が二回も出てくるせいでよく「神奈川県横浜市神奈川県」といった間違いを起こしてしまいます。神奈川区民の中ではよくありがちなミス

としてネタになっています。また、その「神奈川横浜神奈川」という文字列を見て都会だと思われがちですが、実際には皆さんの思い浮かべるような場所ではありません。通学路はキャベツ畑に囲まれていて中華街やみなとみらいのような「よこはま」の面影は一切ありません。（実は横浜市はキャベツの生産量が日本の中でもトップクラスなんです！！）市街地にもすぐでられるので田舎と都会のいいとこ取り（？）な生活でした。

ここからはスポーツ経験について書いていきます。まず、幼稚園の頃には水泳を習っていてスキー部の同期の中に当時同じスイミングスクールに通っていた人がいます。全く面識は無かったのですが、大学で再開（？）できたことに驚きました。世間って思っているより狭いんだなと感じました。小学生では硬式テニス、中高ではソフトテニスを六年間していました。今では硬式感覚は完全に失ってしまっ、たまに打ってみるとカルチャーショックを受けます。また、長年テニスをしてきたせいなのか筋肉の左右差がかなりあります。そのせいで体幹トレーニングなどでは異常な程片側だけ苦しんでいます。しかし、スキーでは両側の筋肉が同じくらい必要になってくると思うので筋トレに励みたいです。

スキー経験自体は年に数回レジャーとして滑る程度でした。ただ昔から「いつかちゃんとやってみたい」と思っていたので大学を機に入部しました。部活という形でスキーに取り組むのは初めてですが、雪の上でスピードを感じられるこの競技に大きな魅力を感じて

います。まずはスキーの楽しさを感じつつ技術的にも体力的にも成長したいと思っています。

競技は未経験なので先輩に早く追いつけるように必死になって努力をしたいと思っています。

これからよろしく願います。

二年生

目標

益子尚真

こんにちは。経済学部二年になりました益子尚真です。今年度spnd委員を担当しているのですが、思ったよりも仕事量が多くて大変です。さて、今回は昨年度の振り返りと今年度の目標について書いていこうかなと思います。

まず、昨年は大学に入学し、生活がガラッと変わった中でよく頑張ったと思います。自炊少しずつして、バイトもして、できる限り全ての授業に行って、毎日を過ごしていました。特にバイトは、初めて自分の力でお金をもらうことができて、とても感動しました。部活では夏の初めにけがをしてしまい、それ以降周りにも置いてか

れてなかなか思うようにならないことも多かったです。それでもまず一年やめずにここまで来ているのは良かったです。おそらく、部員がみんないい人ばかりだったから続けられたのだと思います。スキーの結果は全然よくないですが充実していた部活動だったと思います。昨年はよく頑張った一年だと自分で思います。

ここからは今年度の目標について書いていきたいと思っています。まず、スキーについて、最大の目標はスキーを好きになることです。今までグレンデスキーを含めて数える程度しかやったことがなかった自分が昨年一年スキー部として活動していく中で、楽しい瞬間はたくさんありました。一方で、クロスカントリースキーを心から好きか、楽しめて言えるかと聞かれたら、素直には頷けない、むしろ「ノー」とまで言えるのが現状です。ただ好きになれるのはもったいないから、楽しくそして好きになりたいとも思います。だから今年はスキーを好きになりたいです。そうすれば自ずと速くなるとも思っています。そうなれるよう、今年も練習にはしっかり取り組みます。次に部活以外の目標です。もちろん部活は楽しいし大切ですが、それでも自分は東北大学にスキーをしに来たわけではありません。こう考えると、今年一番の目標は自分に価値をつけることです。というのも、自分は将来何をしたいかまだしっかり定まっていません。そんな中で就活もだんだんと迫り焦っています。だから将来の幅を少しでも広げるために自分に価値をつけたいです。上で昨年はよく頑張ったとは言いましたが、生活を振り返ると、土曜や日

曜など一日中寝ていた日も何日がありました。こういう時間をうまく有効に使ってみたいです。

ここまで読んでいただきありがとうございます。今年度も頑張りますので応援よろしくお願いいたします。

敗北。そんなものじゃない

関口豊萌

「農学部一年の関口豊萌です。」から始めた去年のスキー部。去年の戦績は本州で行われた開幕四連戦全て二位。成長を感じながらもやはり上位選手には勝てないという実力不足を感じた。さらに大会の開催地は北海道へ。北海道選手権は決勝にもいけず。続く宮様。一戦目で吐血するほどのクラッシュ。二戦目はその痛みでまともに滑れず。結果、北海道に行ったにもかかわらず惨敗。続いて富山県開催のアジアカップ。上位選手はワールドカップ出場を賭けた戦い。ただ、富山県平らスキー場には魔物が潜む。いわゆる難関コースなのである。自分自身の滑りがつかめないままだったものの二戦とも決勝へ。そして今シーズン最後の全日本選手権。多くの選手が出場を目指す舞台。運良く三年連続出場。ただ、今年の目標はでることではなく決勝へ行くこと。と意気こんで出場。結果、惨敗。今年は勝ちに行き負ける経験が多かった。もうそんな経験はいらない。

い。今年はまずフィジカル面。ジャンプの技の難易度が上がるにつれて感じる邪魔な腹にたまった夢と希望（脂肪？）。怠惰と自己管理ミスの集大成。冬までに完璧なフィジカルを作る。テクニク面はポジション、ジャンプの完成度などなど列挙したらキリがない。それを一つずつ克服していくだけだ。そして、今年こそ全日本の決勝の舞台で滑る。ここまでは反省と目標。

今年度、二年生になりスキー部の中で初めて役職が与えられた。新歓係。自分たちの行動で今年の一年生の数が決まる重要な役職である。十大戦で王者奪還するためには、絶対に多くの新入部員が必要である。その運命を背負う重圧がのしかかる。今年度は去年より他の部活との合同企画が少ないこともあり、自分たちでイベントを増やすしかなかった。何もかも手探りの中、先輩方の助言もあり、多くの新入生が入ってくれた。喜ばしいことであると同時に、先輩としての自覚も芽生えた。十大戦やインカレなどの大会と一緒にすることはなくともよい結果を残し後輩たちに負けたくない、もっといい成績を収めたいと思ってほしい。そのためにも今年は絶対に勝たなければいけない。いつまでも上位選手にひっついていく金魚の糞でいるわけにはいかない。いつか抜かなければいけない相手。それを実現するのは今年。そう胸に誓い毎回の練習、自主練をやっていく。一日一日、一回一回の練習を大切に今年は勝ちに行く。来年のSPURには、勝った報告と後輩たちへ託す文章だけ。反省など微塵も書かない。

## 部員文

岩川雅治

昨シーズンを振り返ると、苦しさが強調された一年だったように思う。

正直に言えば、現役時代の私は、ある程度の位置で戦うことができていたし、県内のユースレースでは、入賞圏内にいることも多かった。

それが、四年のブランクを経て戻ってきたら、かつてのライバルたちははるか彼方へと行っており、かつて目にも書けなかった相手にも歯が立たない始末。受け入れなければいけないが、到底受け入れることなどできない事実には、相当苦しんだ。

そういったメンタル面での不調が、レースにも如実に表れていた気がする。

「昔はこの人より速かったんだから、この人と同じくらいのタイムは出さないと。」そんなプレッシャーを勝手に感じ、勝手に自滅することが多かった。

来季への抱負を語るとすれば、一つは自分の立場を受け入れること、そしてもう一つは、そこからもう一度這い上がって、泥水をすすする覚悟で、戦うことだ。そのためにも、今季の夏トレは、血反吐を吐くくらいの努力を見せたい。同期で一番実力がある人間として、背中で、示していきたいと思う。

さて、ここまで昨季の振り返りと、来季の抱負を語ったが、まだ五百字程度余っている。適当にグダグダ語るので、暫しお付き合い願う。

最近、趣味と呼べるものがなくなってきている。もちろん、厩や競馬は好きなままではあるが、それは、趣味というよりも、最早義務のような感じがするので、個人的には趣味とは呼んでない。

そうすると、真面目に、趣味がなくなってしまうのだ。

音楽が好きかと言われれば、運転中にかけるくらいで、好きというわけではない。

勉強が趣味かと聞かれるとそれも違う。高校時代は、まあ、(出身校の中では)成績優秀な方ではあったので、そういう感じもあった。が、今となってはお察しなので、勉強が趣味というのは、憚られる。

というわけで、大真面目に、今年は趣味を見つけようと思う。これが、今年の私生活の目標だ。今年はこの目標が達成できるように頑張っていきたい。

と、こんな感じで、昨季の振り返りと、今年度の目標を語ってきた。返す返すになるが、この目標を達成できるように精進したいと思っている。

最後に、昨シーズンお世話になった、蔵王猿倉スキー場、蔵王猿倉レーシング、山形中央高校スキー部、山形工業高校スキー部の皆様様に深く御礼申し上げ、部員文とさせていただきます。ありがとうございました。

## 苦悩と成長の一年

橋浦雅英

こんにちは。アルペン部門二年の橋浦雅英です。自分はこれまで基礎スキーのみをやってきて、大学に入学するまでアルペンスキーは未経験でした。初めてのことに挑戦する中で、今シーズンは特に苦悩と成長のシーズンであったと感じています。少し今シーズンを振り返ります。

まずはシーズン序盤の北海道合宿。ここで自分は初めてポールに入りました。合宿を通してあまりうまく滑ることができず苦戦し、タイムも合宿の参加者の中でビリを争っていました。合宿中は、「本当に自分はこれをやりたかったのか」と葛藤することもありました。正直、あまり楽しいとは思えなかったです。

一月は主に蔵王での練習でした。相変わらずの滑りではありましたが、練習を積み重ねていく中で、北海道で教わったことやメンバーからのアドバイスを少しずつながらできてくるようになりました。二月の長野県・牧の入での練習では、これまでの練習の成果がタイムにも現れてくるようになりました。北海道ではボロ負けだった人ともそれなりに勝負できるくらいタイムは出せるようになってきましたし、それにつれて自信もついてくるようになりました。シーズンが終わりに差し掛かるにつれて、気づけばアルペンスキーにの

めりこみ、シーズンアウトギリギリまで滑っている自分がいました。

今シーズンを振り返れば葛藤し悩むこともありましたが、なににより成長の多いシーズンになったと思いますし、やりがいを感じられるようになりました。技術面もさることながら、特に良いタイムを出すための方策を考え、一本一本書的をもって滑るということができるようになり、成長したな感じています。

またここまでアルペンをなんとか続けることができていたのも、アルペン部門の愉快的仲間たちがいたからだと思いが、時にライバル同士という関係が自分をレベルアップさせてくれていると思います。

自分の来シーズンの目標は十大戦のシードでの出場です。目標達成のためには当然、これまで以上のパフォーマンスが必要となってくるので、オフシーズンもしっかりトレーニングに取り組みたいです。

## 謝罪と

### 月岡晃太郎

ランナー二年の月岡晃太郎です。ネタ探しに去年のSPURをのぞいたところ、自分の自己紹介がないことに、今さらながら気づきました。大変申し訳ございませんでした。土下座してお詫び申し上げます。というわけで、ネタをひねり出している同期たちに若干の罪悪感をいだきつつ、残りの文字数を自己紹介で埋めさせていただきます。

はじめまして!!ランナー二年の月岡晃太郎と申します。学部は理学部生物系です。スキー部の他に自然に親しむ会と将棋部にも所属しています。高校までは将棋をずっとやっていたのですが、大学では体育会系の部活に入ろうと思い、良さげな部活を探しているとスキー部を見つけ、もともとスキーが好きだったため迷わず入部を決めました。

出身は長野県長野市です。信玄公と謙信公が戦った川中島合戦の跡地から結構近いところに住んでいました。長野市の盆地にはあまり雪は降らないのですが、一時間ほどで戸隠スキー場などに行けるため、冬はシーズン券を買ってよく滑っていました。

好きなことは、山登りと音楽を聴くことです。長野にいた頃は、そこらへんの山を手あたり次第登っていました。頭を空っぽにして足を動かしていると、眺めが良くなって、いつのまにか山頂にいる

のが好きです。書きながら、あれ?これクロカンで坂登っているのと同じじゃね?と思いました。クロカンはタイム競っているし、上で休めないのやっぱ違います。仙台に来て山登りしたい!と思い、自然に親しむ会にも入りましたが、日程がどーにも合わず、またお金もかかるため、去年は二回しか登山できませんでした。今年は同期と富士山登れたらなーなんて思っています。

好きな食べ物はりんごと麺類、とくに蕎麦です。大学一年の秋、仙台のお蕎麦屋さん巡りにハマりましたが、冬シーズンを迎えて無事金欠になったため、青葉区のお蕎麦屋さんをすべて回るという目標は露と消えました。今は家でパスタを茹でて我慢しています。

原稿締め切り日に焦って書いているため、好きなことの羅列ばかりで小学生みたいな自己紹介になってしまいました。今時計を見ると二十四時を回ったばかり。ここで、なんだ余裕で間に合ったじゃんと思わなければ、限界大学生なんてやっつけられません。今年度も自分のペースで頑張っていきたいと思っています。

**なんでも後回しにする自分は本当にバカだ。**

高橋昂希

こんにちは。ランナー二年の高橋です。数日後に試験が控えているのにまだ何にも手をつけておらず、SPURも期限日に書いている

この状況、非常にマズいです。試験勉強をぎりぎりまで放置して、直前で焦りだす、いつものパターンにはまってしまいました。

さて、今回はテストを二日後に控えた、これからの勉強戦略と単位を何としても死守し三セメバリアを突破するという決意を恥を忍んで書きたいと思います。戦略ですが、最初に板書のコピーをかき集めて、それで準備完了というわけではなく、勉強する科目に優先順位を付けます。時間や集中力は有限ですから、それらのリソースを有効的に配分して単位を取得するため、これはもう諦めた方が良いでしょう、この科目なら今から頑張れば取れそう、といった具合で科目に優先順位をつけます。本来単位はすべて取得するものですが、自分の至らなさにより今回はすべての科目を完璧にする余裕がない状況で、これはもう覆しようのない事実であり、苦肉の策として肉を切らして骨を断つ的な戦略をとる必要があります。このような状況に至らないようにするためにまず根本療法と反省が第一に最も必要ですが、今回ばかりは余裕がないので対処療法で時間を稼ぐということです。科目が決まったらひたすらに勉強です。特に直近のテストまで五十時間を切ってしまったためすべてを勉強に捧げる必要があります。この二日間が勝負だと思って必死にやります。将来がかかった二日間だと思えば元来怠け者の自分でさえやりきることができると思います。正直この二日間がダメだった場合終わりだと思っています。これほど追い込まれてもなほやる気が出ないとしたら病気で。幸い今は尻に火をたかれてやる気だけはあるのでその点は安心です。しかし現実残酷ですから、高々二日間頑張ったとて、数か

月の怠惰の極みのような生活の尻ぬぐいができるかはわかりません。間に合わないかもしれません。しかし、間に合う、間に合わない、の問題ではなく、とにかくやらなければならない状況なのです。不自然ですが今回のSPUR文はこれで終わりです。くどいですが自分には時間がないので、さっさと文を書き終えて早急に勉強に取り掛かる必要があります。字数に達したため不自然ではありますがこれで筆をおこうと思います。語法、文法、論理的にも不自然な箇所があるかもしれませんがご容赦ください。ここまで読んでくれてありがとうございます。読んでくれたあなたとこれからも部活ができるよう勉強頑張ってきます！

## エゾシカ体質二

佐々木晴菜

今年もSPURの季節が巡って参りましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。これを書いているのは五月末にもかかわらず、もう朝練で汗だくになっております、アルペン二年の佐々木晴菜です。今年のSPURは昨年の続きとして、やはり夏の暑さからお話したいと思います。

私は昨年「エゾシカ体質」であることについて書きましたが、これは非常にやっかいなものでして。夏（もはや春から）、私を苦し

めてきました。北海道出身の私には到底耐えきれない夏の暑さで、登校するのがやっと。陸トレなんてもう地獄に感じられる、この気持ちは皆様にも想像していただけるのではないかと思います。そこで私がとれる行動は一つしかありませんでしたが、何だったのでしょうか。そう、諦めてさっさと帰省する。これに尽きます。猛暑から逃げてたどり着いた先、我が故郷は本当に素晴らしいものでした。爽やかな風に乗ってくる大自然の香りに心癒やされ、体も肥やし、仙台に帰ってきました。そこからは、評定河原陸上競技場に植えられている銀杏の匂いにやられながらシーズンに向けて追い込みをしたり、自宅の上階部屋の設備から水漏れがしたり、SATに登録された名前の振り仮名が間違えられていたりと色々なことがありました。が無事シーズンインを迎えることができました。また怪我なく一シーズン滑りきることもできたため達成感でいっぱいです。ですが昨シーズン滑っていて体力と筋力の不足を自覚したので、今年こそは暑さに、エゾシカ体質に負けず夏のトレーニングを頑張りたいです。

話は変わりますが、私は五月初旬について免許を取りました。しかし私が一浪であり、誕生日が八月であること、そして免許を持っていることで生じる（私的にはとっても大きな）問題があります。それは免許を取得してから一年未満にもかかわらずハイエースを運転しないといけなくなる可能性がある、ということです。私たちアルペンは例年マンスリーでハイエース、もしくはキャラバンをレンタルしています。しかしこれらを借りるときに免許登録できるのは

二十一歳以上の免許保持者のみです。冬の合宿に確実に参加することができない二十一歳以上の人間は私とさくらさんしかおらず、昨シーズンの終わりあたりから二人でヒイヒイ言っています。来シーズン一番の頼みの綱である梓さんは誕生日が二月中旬なので、どうしても運転を避けたい私たちで計画している案は、梓さんが誕生日を迎えてからハイエースを借りる！ということです。どうかインカレが梓さんの誕生日よりもっと後で、合宿も梓さんの誕生日の後にあるか、ハイエースを上手に運転してくださる先輩方が来てくださりますように。合掌。

来シーズンの目標はタイムや滑りの姿勢をより良くすることはもちろんですが、怪我や事故も無いように過ごすことです。皆様どうか温かく見守り、ご指導していただけますと幸いです。応援もよろしくお願いいたします。

#### 2025/5/27 全体練前の頭の中

西村修平

こんにちは。ランナー二年の西村修平です。時の流れとは早いもので先日二十一歳になりました。大人になることを求められる年齢ですがまだまだ至らないところばかりで言葉遣いや礼儀など気を付けないといけないなと思っています。小学生二年生の時

に二十歳の自分を想像して絵に描く授業がありました。私はパイロットの試験を受けている絵を描いた記憶があります(教員は大学を卒業していて二十歳はだいたい大学生なのを知ってるんだから少なくとも二十二歳以降の自分を描かせておけよと思う)。その当時から私のやりたい職業は変わり、今では銀行員に興味を持っています。小学生で考えた将来の夢を実現した人はどれくらいいるのでしょうか。銀行員に興味を持っていますと、結局お金になびく気がしています。本屋で四季報を立ち読みしているとやっぱり総合商社や海運など平均給与が高い企業を探しています。浅はかですね。いい高校に行っているいい大学に行っているいい企業に行くことが幸せだという考えが染みついているかもしれません。このままいけば安泰……?とってしまうところではありません(「このまま」に多くの苦労があることは重々承知していますが)。昨年は、浪人の末やっとなつた合格だったので「学歴社会最高!」みたいなことをぬかしていました。二年生になってからはたかが属性に安住してはいけないうえに強く思うようになりました。自分自身に何かしらの長所や魅力がなければ孤独に生きていくことになると思います。ここで、幸せとは何かという問いに至ります。私はこうだと思ったことを思考停止で肯定してしまう癖があるように思っていて、いい高校↓大学↓企業のルートが無批判に肯定していました。このまま世間で「いい企業」とされる企業に就職しても自分自身を見失ってしまう気がします。今は就職という区切りを前にして自分のやりたいことをやっていますが、就職した以降は区切りが10+2年先になっ

てしまうのでだらだら目標もなく過ごしてしまいかねないと思います。幸せとは何かを今のうちに発見しておくとな人生が豊かになる気がします。少し寄り道しましたが、幸せとは何かある程度の見当はついていきます。いろいろな人とバカ話ができるようになることです。「人生たのしー」となる時期が今セメスターで2度訪れましたが、いずれも誰かと飲みに行ったり遊びに行ったりしていろいろな話が聞けた・話せたからだと思います。どれだけお金持ちになつたとしても友人がいなければ寂しいし、逆にお金がなくても友人が多ければなんだかんだ幸せなのだと思います。友人に頭の片隅で「あいつちよつとおもしろいから今度飲みに行くのも悪くないな」みたいなことを思ってもらえていたらうれしいなあ。

#### 最近嬉しかったこと、悲しかったこと

前川舜馬

みなさんこんにちは、ランナー二年の前川舜馬です。入学して早くも一年がたちました。なのに、タイピングが遅すぎてこの文章をスマホのメモで書いています。めんどくさくてスマホでやってしまいます。そして、この文章をパソコンのGmailに送って、それをWordにコピーするという手順を踏んでいます。そのほうがめんどくさいやんとよく言われます。この調子ではまずいです。

さて、僕は、最近嬉しかったことと悲しかったことを書くと思います。後半に悲しかったことを書くと、悲しいまま終わってしまうので、最初に悲しかったことを書きます。それは、睡眠をしつかりとったのに次の日眠いということです。悲しかったことというか、これは現在も進行中なので、悲しいことです。二年生になり、専門科目の授業が始まりました。興味もあるし、難しいので、ちゃんと授業を受けたいと思っています。そして幸運なことに、ランナーの朝練が専門科目のある金曜日ではなく木曜日になり、金曜日は早起きする必要がなくなりました。だからしっかり寝て、集中して授業を受けようと思っているのに、なぜか眠いのです。大変悲しいです。本当にどうしよう。

辻井響

次に嬉しかったことです。つい最近まで、新歓期間がありました。終わってみると一年生がいっぱい入ってくれてとても嬉しいです。そしてなんと、コンバ志望が本当にたくさんいます。ランナー二年としては少し悲しいのですが、コンバの人数が少なかったのですごく嬉しいし、大会などでたくさん活躍してほしいと思っています。もう一つ嬉しかったことは、自転車を掃除したことです！サビ取り液とオイルを買って、さびまわったチェーンを掃除しました。さすがに元通りとまではいきませんでした。それでも銀色の輝きを取り戻し、滑らかに回ってくれるようになりました。青葉山に帰るのが憂鬱だった日々が今は少し楽しいです。いやそれにしてもなんでキャンパスを山の上に作ったのだろうかと思っています。最近の願いは、卓越のお金で川内と青葉山を繋ぐ超巨大エレベーターが完成

しないかなあ、です。最後に嬉しかったことは、何年かぶりに涙を流して泣けたことです。ある映画で感動して泣いたのですが、最近泣かなすぎて僕の涙は枯れてしまったのだろうかと思っていたので、本当に嬉しかったです。

大変個人的なことをここまで読んでいただきありがとうございます。今年度もスキー頑張っていきます。

## 限界自炊大学生

アルペン二年の辻井です。最近は一入暮らしにも慣れ、家ではやりたい放題の日々を過ごしています。スキー部に所属していると思うこと、それはとにかくお金がかかる、合宿前日の銀行口座から引出しに心がやられます。もちろんバイトして節約して何とかやりくりしています。自炊生活もいいですが外食でおいしいもの食べたい気もします。問題は食べることが大好きなのでうまいものたくさん食べて心も腹も満腹にしたい点です。そうすると金が飛ぶという最大の壁に直面します。人との付き合いでご飯にいくのであれば、それは大歓迎ですが、一人で外食する気には到底なれません。自炊の最大の利点はうまいものをたらふく、そこそこの値段で食えることだと考えております。時間に余裕のある日は手間かけてでも心を満

たしていきたいです。そこでおすすめの四川風麻婆豆腐のレシピを書いています。おおもとは某レシピアプリにあります。サムネイルがオレンジと緑のやつです!!

麻婆豆腐は基本的にはcookdo等のもとを使っていますが、今回は使いません。高いからです。ただたくさん材料が必要となるため、実は麻婆豆腐のもとを使うほうが安くなるのではという意見もあるような・・・

#### 材料

ひき肉 2,300g、豆腐一丁、ネギ(よく買い忘れる)

#### 調味料

醤油①、甜麵醬①、唐辛子ホール①(辛いのが苦手な人はなし)、刻みニンニク②、ショウガ②、豆板醬②、コチュジャン②、豆鼓③、七味唐辛子③、料理酒、醤油、中華スープ 200ml、水溶き片栗粉、お好み胡椒、塩、花椒、ラー油

#### レシピ

- 1 油を引いて、ひき肉を火が通るまで炒め、①を入れて、まんべんなく色が変わるまで炒め、器にあげる
- 2 再度油をひいて①の色が変わるまで火にかけ、②を入れて火にかけ、③を入れて軽く火にかける
- 3 料理酒を入れてのばして、中華スープ半分、肉味噌をいれて軽く煮詰める

- 4 残りの中華スープ、醤油、豆腐をいれて火にかける。この時、へらやお玉で押す、引く動作に固定すると豆腐が崩れにくい
- 5 ネギを投下して火を通したら、一旦火を止めて、水溶き片栗粉を入れ軽くなじませてから、強火で一気に火を通す
- 6 お好みで胡椒、花椒、ラー油をかけて完成

#### 二年生になってしまった

南雲美里

ついに「先輩」という肩書きがつく学年になってしまったアルペ  
ン二年の南雲です。昨年は私にとって競技復帰一年目で、不安と葛藤に苛まれた年でした。自分本来の滑りがなかなか発揮できず辛かったし、地元の同期がインカレで活躍する姿を見てメンタルがやられ、復帰なんかしなければよかったと心から後悔しました。中学時代にケガをした膝の痛みが悪化したことも悔しいです。しかし悪いことがばかりではなく、昨年だけで以前の滑りの水準に大きく近づけることができました。そして明るく前向きな同期たちと最初の年を楽しめたことが何より嬉しいです。選手でもサポーターでも一生懸命なアルペン、自分たちが忙しくても「頑張れ」と声をかけてくれるノル、みんなで支え合う姿がとても素敵だなあと思いました。依

存はしないけれどもお互いをちゃんと気にかけて応援する〇の雰囲気  
気が私は好きです。みんなありがとう。

さて話は変わりますが、ここからは二年生になったことによる勉強  
強関連の愚痴をつらつら書いていきます。私が所属する法学部では  
2年生になると法律科目が一気に増えます。政治や政策を学びたい  
人（私も含め）にとっては苦痛以外の何でもありません。そういえ  
ば法律科目と政治科目でモチベに差がありすぎて、アルペンの同期  
に「法の抜け穴を利用するためだけに法律の勉強してそう」と言わ  
れたことを思い出しました。辛辣すぎて草。しかしこんな私でも楽  
しく学べる法律があります。それは日本国憲法です。学説や理念が  
独特で面白いし、授業ではいわゆる三権分立など政治にかかわる話  
も聞けます。激アツ。授業担当が私の好きな教授なのも推しポイン  
トです。不満があるとすれば最高裁判例の判旨が回りくどくて、教  
授の解説がないと何言ってるかさっぱりわからない点です。話の展  
開が掴めず頭から「？」が消えなくなった時点で詰みます。ちなみ  
に個人的わけわからん判例ランキング第一位は昭和六十二年の森林  
法違憲判決です。大げさだと思っ方、読んだ感想お待ちしております。  
私の読解力の問題では？という指摘は刺さるのでやめてくださ  
い。

今年の冬もスキー漬けとなるでしょう。そして来年の今頃は就活  
に勤しんでいるでしょう。なのでやりたいことはこの夏にやってお  
こうと思っています。今のうちに留学や旅行に行きたいな。今年は  
膝の機嫌を伺いつつ苦手な陸トレにもしっかりと取り組み、楽しむ気

持ちを忘れずに練習していききたいです。そして見つかった課題をど  
んどん克服して、さらにレベルの高い滑りを目指したいと思いま  
す。

## 題名、後悔、字数稼ぎ、謝罪

鈴川蓮太郎

第二の青春と言わんばかりの薔薇色の生活の青写真を心に抱きな  
がら足を踏み入れた扉は最早足早に始業チャイムと同時にすり抜け  
るようになった今日この頃、私の上に被さっているこの布団ですら  
もまるで鉛の塊のような重さと感じることが多くなってきておりま  
す。人は、まあここまで体たらくな生活を送れるものだとも自分で  
驚きを隠せません。最も嘆かわしく、驚愕的な事実が私のこの部活  
に入ってから既に一年が経ってしまっているという事でしょう。こ  
の一年間の記憶の中で何か将来の為であるとか、人生の為に有意義  
な出来事は無いかと思いつ返そうとしても私の脳みそは存在しない記  
憶を作り出そうとしてくる次第であります。私の体たらくさ、特に  
一年生後期における体たらくさは挙げればキリが無い事でしよう。  
自然科学総合実験の未提出に加え、自科総のレポートを言い訳にし  
た授業の欠席等々。この結果、ただでさえ危うかった卒業をより崖  
の近くへと押しやることとなってしまいました。最早私の学士号と

卒業は崖の淵に残る石ころ二つのようです。私の足が誤ってこの石ころを蹴り落としてしまった時は皆様、特に同輩の皆様方は共に悲しんでやってください。

さて、部員からの信用も卒業単位も落ちかけている私であります。が、ここ最近では八単位落単という苦い思い出を胸に心を入れ替え、勉強に至りましては課題やレポートを期限内に提出することを心掛けるようにしております。しかし、事このSPURにつきましては勉強への熱中が裏目に出てしまったのか、提出期限ギリギリにこの文章を書く事態に至ってしまいました。誠に申し訳ございません。しかし二セメから心を入れ替えた私でありますから、提出期限は守りたい。ですからこのようにして意味もない文章をただつらつらと述べながら字数を積み上げている次第です。

ここまで文章を読んでいただいた皆様方には大変申し訳ないので、この文章は提出期限を死守するために書いた文章であり、内容といたしましては紙のように薄い内容です。ですからこのような文章を読んで人生の中における数分間を無駄にしていただかないように題名を右のようにさせていただきました。ここまで読んでいただいた方には貴重なお時間をこのような無益な文章を読むことに使わせてしまい、誠に申し訳ございません。来年こそは何かしら有意義な文章となるよう、そして提出期限を守れるよう努力していく次第でございます。

三年生

いろいろ

安村悠希

ランナーの安村です。部活とは関係ないことについて書かせていただきます。

最近インスタで見たのですが、男の子は棒を持つと振り回したくなるそうです。ちょっと振り返ってみると、雨の日に図書館で勉強して、帰りに自分は傘でバッティングをしていました。なんとも幼稚な、とは思いますが、まあ仕方ない。ずっと自分は小学生みたいな幼稚なまま大人になっていくと思うと怖いです。

地下鉄で通学するときは、なるべく本を読むようにしています。

スマホを触りだしたら終わりだと思っています。そのおかげで結構な数の本を読めています。周りの東北大生の若者も同じく紙の本を読んでいる人が結構います。何を読んでいるかとも知りたいですが、たいていの場合ブックカバーをしているので、わかりません。自分は川上未映子さんの本とか、村田紗耶香さんの本とかを読んで

います。比較的読みやすいので、そんなに頭がフル回転していなくても読めてしまいます。

そして、最近は週に二回ほどフランス語のオンライン会話レッスンをしています。あまりうまくはできませんが、何とか伝わるし、最悪英語を喋ればなんとかなります。個人的には英語の発音よりもフランス語の発音のほうが好きです。㇗の発音もフランス語のほうが楽にできます。今後の目標としては、いったん Le petit prince を一応読めるくらいにはなりたいです。

現在、とってもレコードプレイヤーが欲しくなっております。山下達郎の歌を家で優雅に流せればなんて風流な時間が送れるだろうかと想像しています。今まで、同じ世代で山下達郎が好きな人に出会ったことはまだありません。おそらくそんな人がいたら、運命の人かもしれません。どちらかというと、海外のほうがなんなら多いのではとすら感じています。一緒に誰かライブに行きませんか。

様々なことをやりすぎて、そしてやってみたすぎて、もうよくわかりません。大学生活でわかったことは、もう決断するときは何も考えず、時の運に任せればいいのです。だから、現時点で好きなことをすればいいです。ちなみに解析力学では、今時点で好きな方向に行っても、将来を考えて、エネルギーが低いように動いたとして

も至る結果は同じであるそうです。だから気にしなくてよいんです。

### 俯瞰から考える努力の理由

岡野裕也

ニーチェの有名な言葉に「神は死んだ」がある。この一言は、単なる宗教批判ではなく、近代以降の人間が絶対的な価値や意味を失ってしまったことを象徴している。神が生きていた時代、人間は善悪の基準も、生きる意味も、努力の理由も、すべてを神に委ねていた。しかし、神が「死んだ」現代において、それらの価値基準は崩壊し、私たちは空虚な世界に投げ出されている。

では、なぜ努力するのか。すべての価値が相対化され、正解がない時代に、努力する理由などあるのか。ニーチェは、この問いに対して逃げずに向き合い、「超人」という概念を提示した。超人とは、苦しみを乗り越え、価値を創造し、自らの人生に意味を与える存在である。つまり、神に代わる新たな意味を、外に求めるのではなく、自分自身の中から生み出す者こそが、現代において努力するに値する人間である。

努力とは、単に成功や結果を求める行為ではない。むしろ、混沌とした世界において、「意味」を見出すための行為である。他人から与えられた目的ではなく、自分で選び取った目標に向かって、自身が存在を形作っていく過程こそが、努力の本質だ。神が死んだことで、私たちは不安定で孤独な自由を手にした。しかしその自由は、同時に私たちに創造の責任を課す。努力とは、その責任を引き受け、未熟な過去を乗り越え続けることに他ならない。

滝沢周大

つまり、努力する理由とは、「意味が失われた世界」において、自らの手で新たな意味を創り出すためである。どれだけ不確かで、報われる保証がなくとも、自分自身の価値を、自分自身で築くしかない。それは苦しい道だが、同時に最も人間的で、最も尊い営みでもある。

「神は死んだ」世界においてこそ、私たちは努力する。なぜなら、それこそが私たちが生きる意味を持ち得る、唯一の方法だからだ。

さて、私は三年生になったことで、自分の将来について考える機会が増えたが、未だに答え出すことができていない。子供の頃は「いい大学に入れば安定した人生がある」「正社員になれば安心だ」といった正解があるものだと思っていたが、実際にはそうではないようだ。結局は自分で何かに価値を見出し、それを目指して努力をする

るしかない。長ったらしい文章ではあるが、結局当たり前の結論に至った。

## 丈夫魂

気づけば〇が登場し、〇はすっかりおじさん扱いですね。私は三年生になり学部生としてはもう折り返しです。〇内では恋バナが今ホットですが、僕としては提供できそうな話題はございません。悲しいですね。最近は自分の人生について考えるようになりました。春休みに帰省したとき、大学生の友達が就活の話をしていたからです。みんな一年後には社会に出るわけです(僕は浪人なので時系列注意です)。東北大に入学してから割と何も考えず、ここまですてまいました。人生でおそらく最も時間のある今、何かチャレンジしなくて本当にいいのだろうかと思ひ、夜しか眠れません。同期のヤスマラは僕とは対照的です。僕はある一つのことに恒常的に取り組むことが得意です。一方、彼は、ある特定の事柄にとらわれず色々なことにチャレンジします。気づけばラテン語を学習していたり、突然ニュージーランドへ行ったりします。行動力にいつも驚かされますが、その点を僕は本当に尊敬します。割と彼のおかげで挑戦に対するハードルが下がっているように感じます。

この間、C3でご飯会を行った時のことです。人生についてお

話が弾んだのですが、結果を言うと、やりたいこと、やればいいじゃんという結論に至り、妙に納得してしまいました。彼がいろんなことにチャレンジするのは心からやってみたいと思っているからであり、無理に気持ちを变えるまでもないのではないかと思います。じゃあ今やりたいことって何だろう。となると僕はスキーぐらいしかなさそうです(あとムキムキになってみたいのはここだけの話)。そう考えると部活選択◎でした。二年前の自分、NICEです。

ますらお【丈夫】ーりっぱな男。勇気のある強い男。(辞書より)

僕の通っていた高校で使われている言葉です。高校に入学すると何かと丈夫魂と銘打って勉強や行事を取り組むように言われます。この言葉に関連した応援歌は、校歌の十倍くらい歌います。おそらく先生方は、これを歌わせとけば生徒は勝手に盛り上がるだろう精神なのだろうと思われまふ。僕の代はコロナ禍にぶち当たり、比較的歌う回数も少なかったですが、それでも帰属意識が生まれて個人的に気に入っています。

僕の人生、ほぼ単調で山も谷も別に、ないです。ただスキーはとも楽しいです。楽しいと思うことを楽しむという芯を大切にしたいなあと思います(自分で何言ってるかあんまりわかってないですが)。また、こうした自分の判断とその勇氣に自信を持つようになります。そして、丈夫になりたいと思います。丈夫魂!最高!

## 最近のこと

谷口聖実

こんにちは。ついに幹部代になってしまいました、ランナー三年の谷口です。今年の三月で二年間住んだユニバーシティハウス三条から出なくてはいけなかったのですが、三条に愛着がわいたのはほんの300mくらい離れた場所に引っ越しました。毎日自転車通勤・移動頑張ってます。四月からは本当の一人暮らしが始まり、家具家電はいつでも自由に使えるし家の中で他人に会うこともなくなって、毎日快適ハッピーです。ただ、恥ずかしながら四月は一回もコンロを使っていません!かなりまずいです。お米だけ炊いて、あとはバイトのまかないとほんととっと弁当などで乗り切りました。私の自炊モチベはどこへいったのでしょうか。今後の目標としては、五月中にキッチンを整理して自炊する環境を整えることです。だらしなさすぎる。

去年部員文を書いてからもう一年経ったと考えると、この一年も濃かったなと思います。インカレ女子一部に上がるという事で毎回の練習にも気合が入っていたし、生活も部活中心でした。きついと思うことはあっても練習に行きたくないとは一切思わず常にモチベーションを保つことができたのは自分でも頑張ったなと思います。これも大好きな同期やランナーのみんなのおかげです。特にランナー同期としてここまで一緒にやってきた周大と悠希には本当に感謝

です。あまり直接は言わないけど、クロカン練習で居残りや昼休憩返上でやっていたり、陸トレでも先頭を引っ張っていたりする姿は同期として誇りに思うし刺激になっています。幹部代になって、三人で話し合うことやちょっと深い話をすることも増えてそれぞれの考えがあるんだなと感じたけど、お互い尊重して、最後まで力を合わせて頑張りたいです。

昨シーズンは、積み上げた練習量にも自信があって、十大戦・インカレ・国体と満足のいくレースが多くできたシーズンでした。今年はインカレ一部でフリーが「自由」なので、もう苦手とは言わずにやるしかありません。昨シーズンのレースの中で唯一？うまくいかなかったインカレフリー「自由」の雪辱を果たすべくレベルアップしていきます。また、一年生もノルディックにたくさん入ってくれそうなので、東北大を強くするために自分が持っているものは積極的に伝授していきたいです。

スキー部とはあまり関係ないですが、今年度はフルマラソンを走ります！先日その前段階として初の仙台ハーフマラソンに参加しました。脚が今までにない痛さでフルだとこれの二倍か…と絶望しているところですが、たくさん練習で走りこめば何とかなるはずですよ。いや、なってくれなきゃ困ります。マラソンに向けて走ることで、クロカンにもつながるし、大学三年生の今年もやりたいことを精一杯やっていきます！

石の上に三年も座れば痔もできる

猪川 燎人

なんだかんだで三年目。いよいよ入学当初に見た唯人さんと同じ学年になってしまった。幹部代になってしまった実感は一ミリもない。だが、大量に入部してくれた後輩を見ると、「入部してから三年目になるのかあ」としみじみ感じるようになった。たかが二年の大学スキー部生活を過ごして、思うことがある。世の中は楽しんだものの勝ちである。

恥ずかしながら、中高と実はそこまで真面目に部活をしてこず、浪人で一年座りっぱだった私にとって、スキー部に入ってからが一番運動している。後輩にもそんな人がいるとは思うが、これだけは言いたい。無茶だけはするもんじゃない。いや、多少の無茶はしてみた方がいい。いいかもしれない。ただ、周りと比較しすぎて、心と体を苦しめながら部活をしていると、どこかに支障をきたす気がする。殊、私に関して言えば、毎年体を壊している。ちなみに、これを書いている今も、軽く肉離れを起こしている。私は運よく体しか壊れていないが、心を壊すと治すのも一苦労である。少なくとも、体力・筋力をつけるには、継続して続けるしかない。一回で追い込みすぎるのではなく、日数で追い込むことを意識する方がいい。自戒を込めて。

とはいえ、世の中なんでもそうかもしれないが、楽しむやつには

勝てない。この「勝てない」は、順位やタイムの話ではない。もっと大きい意味で勝ちなのだ。もちろん、周り比べて、頑張っ上にあがっていくのは良い事だ。それが楽しいならなお良い。ただ、上にあがっても、上はいる。なんなら、周りに抜かれることもある。そんな中で、上へあがろうとする意志を持ち続けるのは簡単ではない。だからこそ、楽しむことが大事なんじゃないかと思う。ここまで読んで、「いや、それは努力が足らなかろう」と思う人もいるかもしれない。その人たちは是非その思考で続けてほしい。この話は、その思考に疲れた人、向いてない人にしかピンとこないだろう。

楽しんでる人はすごい。周りと比べることなく、または、周りとの差をあまり意識することなく、ただ楽しいからするという状況は、最強なのだ。もちろん、部活に関しては当然だが、人生全体を通して言えるんじゃないかと思う。就活を始めて余計にそう思うようになった。就活では、自分のライフプランなるものを作って、それに合った企業を選ぶ必要がある。ここで、初めて順位付けできないものに出会った。人生なんて人によって違うし、やりたいことも人によって違う。時間より金が惜しい人もいれば、金より時間が惜しい人もいる。金が貯まる事を喜びとする人もいれば、金を使うことを喜びとする人もいる。こんなもん、順位のつけようがない。そんなこと言っちゃって、この世界は資本主義で金があるの言うんだから、年収で順位付けできるだろうと思うかもしれない。それはある意味正しい。ただ、金は降って湧いてくるものではない。高収入には、

それに見合う労働が存在するのもまた真理。資本主義の冷酷で合理的な点である。変な話、ホストやキャバ嬢、保険の営業、キーエンス等、高収入が得られる可能性のある職種、企業はいくらでもある。ただ、並大抵の努力ではない。立っているのもやっとな人が何人いるか。全てを捨てて、金を手に入れる。その人生を手放しで一位というのは短絡的すぎる気がする。

結局、自分が楽しいと思う人生が最良の人生で、人によって違う。当たり前のこと。聞き飽きたセリフ。ただ、その当たり前の事が、就活によって、自分事になり、目の前に大きな壁となって立ちはだかつてくる。「お前は何かしたいんだ。何をするのが楽しいんだ。将来どうなりたいんだ。」と。

だから、大学時代は、もっと遊んでいい気がする。趣味がない、好きなことがない人は、少しでも気になったものに飛びついてみればいい。結果損になったとしても、自分は何をしてると幸せなのか、なにを求めて生きるのか、少しでも分かれば得になるだろう。

とまあ、長々と今思うことを書き連ねて、スキー部に居続けて出来た時の濃みみたいなものを出せたと思う。濃ゆえに、汚く、見るに堪えない文章かもしれないが、一人のスキー部員・就活生の本音だと思って、温かい目で見てもらえれば幸いである。

心身ともに去年に戻りたい

#### 尾白梓

こんにちは。アルペン三年の尾白梓です。気がついたら大学生活も後半戦に入り、幹部代になっていました。今年度、主務とSPUR監督を務めます。よろしくお願いします。

二年生の夏は、たくさん遊ぶことを目標にして、宮城や東北内をドライブしたり、シンガポールや香港、沖縄、大阪旅行に行った、練習後に同期とご飯を食べて、夜中までおしゃべりしたり、たくさん楽しい思い出ができました。アルペン同期とは沖縄旅行に行ったので、今年は北海道一周でもしたいねと話しています。就活生がいるので本当に行けるのかはさておき、楽しみです。冬は、できるだけたくさん滑ることを目標にして、三月後半まで頑張りました。正直最後の方は早く終われと思っていましたが、四月になった今ポールに入りたいです。たくさん滑った分たくさん課題も見つかり、アルペンに関しては悩むことの方が多かったシーズンでした。アルペンではないのですが、大学で関わることはないと思っていた基礎大会に岩岳基礎団体戦で出ることができ、少ない練習時間の中で入賞できたのはとても貴重な体験になりました。誘ってくれたさくらと美里、一緒にでてくれた晴菜もありがとう。夏冬通してとても充実した一年でした。

三年生の授業が始まり一か月が経ちましたが、毎日午後の実験に

疲弊しています。実験結果が正しい値は5%に収まらないとやり直しなので、失敗する恐怖におびえながら日々作業しています。ついおととい失敗したのでまた一からやり直しです、萎え。後期は限から実験の日もあるようで心配です。これが四年生になったら、向き合う課題が未知のものになると思うとさらに不安ですが、また学生実験をやるのはごめんなので、無事何も取りこぼすことなく進級したいです。もう一つ最近不安なことは、膝です。去年の冬前にラッシング中に痛めてから、まともに走れなくなってしまいました。病院に行ったのですが、慢性痛らしいので、日々ストレッチや筋トレなどで痛みがでないようにケアしていきたいです。

三年生になってから文武共に課題が多いですが、たくましい同期を見ているとこんなことで悩んでられないなと思わされます。今年こそは十大戦総合優勝したいので、不安なことも多いですが、ガッツあふれるランナー、いつでも明るく穏やかなコンバ、大好きなアルペン同期と一緒に冬に向けて頑張ります！

#### 上半期振り返り

品川咲季

ついに三年生になってしまいました。早すぎて信じられないです。私が入部したときの三年生は大人でかっこよくて憧れの先輩っ

て感じだったので、果たして自分もそうなれているのか？不安にも  
思いますが、自分らしくやってみようと思います。というわけで  
SPURを書くのも三度目になりました。2025年もう少しで半分  
を終えてしまうということなので、今年は上半期の振り返りをしま  
す。

## 一月

実は新年早々災難続きでした笑。十大戦を終えて家に帰ったら、  
なんとトイレの水が逆流してました泣。年末年始は多くの人が帰省  
する関係で空気が変わるとかで、ピンポイントで私のトイレに異  
臭とともに水が下から上ってきちゃったみたいです泣。しかも年始  
で業者の人も呼べないとかで絶望。ビジョ暮らしが始まりました。  
意外とビジョ快適だったのと、後日トイレが壊れているわけじゃな  
いことがわかって良かったです(´▽`)。中旬には成人式がありまし  
た。たくさん友達と久々会えたり、空港で偶然にもスキー部北海  
道勢集結して嬉しかったです。そして仙台に戻った翌日に発熱。し  
かも症状が本当にコロナすぎたのに風邪と診断されたので、死にか  
けになりながらテスト受けに行きました笑。声枯れて、二月になっ  
ても全然治る気配なくて二十歳にして変声期を迎えたのかと思いま  
した。

## 二月

朝日町での合宿&インカレ！自分の実力不足と向き合う時間も多  
くてしんどい期間だったけど、次のサマーに向けての課題が明確に  
なりました。

## 三月

後半絆楽しかった。達成感ありました！八木杯も楽しかったし、  
春休み満喫できました！

## 四月

朝は一限から、午後からの実習十九時過ぎまであって、理生の先  
輩方から人格が崩壊するよと言われていた恐怖の五セメが始まりま  
した。高校の同じ部活の友達と仙台で会えたり、同期と先輩とバン  
ジージャンプしたりと、楽しいこともできたので良き。

## 五月

GW前半は初サマー！飛んできました。高梨沙羅さんと一緒に飛  
べたり、話しかけてもらえたり、写真も一緒に撮っていただけたで  
最高でした。後半はきよみと念願のコナンの映画見て、ケンタッキ  
ー食べて最高でした！久々の同期会もできました。

今は実習と課題に追われすぎているのと、六月に教員採用試験が  
ある関係でなかなか思うようにスキー部の練習に参加できていない  
ですが、股関節の怪我を十分に治す機会だとポジティブに考えて、  
一旦勉強頑張ります。

## 二十一歳の壁

鈴木さくら

こんにちは、アルペン三年の鈴木さくらです。私ごとですが、先日二十一歳を迎え、「ハタチ」を卒業してしまいました。十代の頃からするとなんかハタチは特別な気がしていました。ふわっとぬるっと終わってしまいました。でも、同期のあず椋人とたくさん遊んだし、マレーシアも沖縄もいけたし、とても充実したハタチを過ごせたので、満足です😊

さて、本題に入りますと、二十一歳を迎えるにあたって想像以上にその「壁」が大きかったのでお話しします。

まず一番苦しめられたのが、胃もたれです。趣味が「食べる」と「寝ること」と言っても過言ではないほどにこの2つの行為が大好きな私ですが、誕生日付近から胃もたれが止まらず、サラダチキンで胃もたれをした時には、もう自分は草食動物になってしまったのだと思いました。「バースデー胃もたれ」になる前から椋人に専属残飯処理係をさせてしまっていたのですが、四月からしかも、聖実と晴香と一緒に働いている居酒屋が、ランチの時間にトンカツやさんを始めたので賄いでカツが出るが多くなってしまい、胃が悲鳴をあげています。今までは楽しみで仕方なかった賄いですが、今は揚げ物がでないことを祈って出勤しています。

こんなにバースデー胃もたれに苦しめられて食べる量が減っているにも関わらず、体重が全く減らないのはなぜでしょうか。

さらに、私は「寝ること」も大好きなのに、朝早く目覚めてしまうという「バースデー早起き」にも苦しめられています。基本眠りがめっちゃ深いため、目覚ましをかけないと昼過ぎまで寝続けられていたのですが、ここ最近、朝練がなくても六時頃に目覚めてしまい、ちよつともったいない気持ちになります。朝寝られない分、ほぼ毎日お昼寝をして取り返そうと頑張っています。いい睡眠方法を知っている方は教えてください。

ここまで二十一歳の壁に苦しめられている話をしてきましたが、まだまだ楽しいこともたくさんあると思うのでポジティブに、怒らずに、たくさん笑って過ごしたいです！アルペンチーフになってから、後輩と先輩の機嫌を伺ってばかりで辛くなってしまいうことが多いですが、とにかく楽しく自分らしさを失わずに一年を過ごしたいな、と思います。そのためには食事と睡眠はちゃんと取りたいです。

## 最近

高田光太郎

三年コンバインドの高田光太郎です。あつという間に大学生活も

折り返し、気づいたら幹部代になってました。まあ自分は無職なので別に何か仕事があるとかではないですが。自分が入学した当時のことを思い出してみると当時の三年生は頼りがいもあってザ・憧れって感じでした。それに対して自分は全くそんな気がしないです。後輩にかっこいい背中を見せることも、大した指導もできないです。一方でコンバに入りたがっている一年生は今のところ八人くらいいます。不安ではないです。この感覚デジャヴ味があります。自分が中二の時の先輩たちが引退した直後もこんな感じでした。吹奏楽部だった当時、自分と初心者の一年七人でアンサンブルコンテストにでました。部活の時間にひたすら後輩の指導をして、朝と昼休みに自主練。結果は金賞には二点届きませんでした。自分の技術向上にもつながったし、チームを牽引するいい経験になったと思います。それに比べたら今の悩みなんて大したことないかもしれません。今回は同期もいますし、先輩方も練習に来てくれます。周りに頼れる部分は頼りつつ後輩たちをどうにかまとめていきたいです。

急に中学のことが出てきましたがそれも全部最近就活をしているせいです。就活の軸をつくったり、自己分析をしたりするために、過去を振り返っています。正直やりたくないです。何なら就職もしたくないです。働かずにずっと学生でいたいです。でもいつかはやらなきゃいけないし、どうせやるなら上を目指したいです。幸い、周りに一緒に就活する仲間や手伝ってくれる先輩もいます。本当にありがたいです。それなりに頑張っていきたいです。来年のSPUR

での結果報告を期待しないで待ってください。

忙しい日々を過ごしている最近ですが、唯一の趣味はラジオです。朝起きてから夜寝落ちするまでずっと聞いてます。特に芸人のラジオはめっちゃくちゃ面白いです。マユリカのうなげろりんが一番のお気に入りなのでぜひ聞いてほしいです。少し前にラジオのイベントの配信を購入するくらいハマってます。ラジオばかり聞いているせいで最近の音楽にはどんどん疎くなってきているのが唯一の欠点ですが。

ここまですぐ話が散らかってしまいましたが、今年一年が自分の人生にとっても東北大スキー部コンバインド部門にとっても大きな転換点となると思っています。部活も就活も頑張っていきたいです。

四年生

これまでの振り返り、打倒

塩倉颯瀬

こんにちは、アルペン四年の塩倉颯瀬です。無事に四年生に進級し、研究室にも配属されました。しかも、第一志望の研究室です。

これには澤田くんも驚いていましたね。今回は僕の最後の部員文となるので、スキー部での三年間の振り返りと今年の目標を書いていこうと思います。

スキー部に入って一年目は成長をよく実感できました。北海道での初ポールでは、ポールにもスピードにも完全に怖気づいていましたが、同期の真拓や先輩たちの滑りを見て、「自分もあんな滑りがしたい」と思いました。宿ではコーチの上野さんに撮っていただいた動画をダウンロードし、繰り返し何度も見ました。特に、真拓と唯人さんの二人は小さい頃からスキーをしていたからか、基礎的な動作が共通しているように見えました。そこで二人の滑りの共通点から自分に何が足りないのかを学んでいきました。このとき、「なんとなく見る」のではなく、「特定の部位や板の向きなどに注目して観察する」ことで具体的に自分の修正点が分かり、実践してみると、すぐに変わり始めました。自分が何かスポーツをするとき、最も大事にしている価値観は「成長できているかどうか」です。この価値観があったからこそ、自分なりに試行錯誤してこられたと思います。

二年目は動画を分析する頻度が減り、結果として成績も伸び悩んだ年でした。シーズン初めは調子がよかったものの、シーズン通して滑りに大きな変化はなく、大会での完走率もかなり低かったと記憶しています。特に、インカレでは大回転、回転の両方転んでしまい、悔しい結果となりました。ただ、大回転で片反しても無傷で帰れることがわかったのは大きな収穫でした。

三年目はブーツをアトミックに変更したことで滑りが安定し、調子も上がりました。また、スキー操作に関する知識もようやく整理され、滑りに活かせるようになってきました。上達には、「正しい知識」と「それを正確に体現できる能力」が必要だと改めて思いますが、これはオフシーズンでも磨ける部分なので、意識的に取り組んでいこうと思います。

最後に今年の目標についてです。近年アルペン経験者の後輩も増え、部全体のレベルが上がってきていますが四年生として後輩に負けるわけにはいきません。特に岩川君は「颯瀬さんは眼中にない」とか言っていたので、実力で分かってあげたいと思います。また、今のスキー部内の立ち位置的に僕は「ちょうどいい壁」になっているようなので、もう少し上について、威厳のある先輩になりたいです。泣いても笑っても最後の一年、悔いのないように全力で楽しんでいきます。

### 三週間の疾走

加藤杏菜

こんにちは。ランナー四年の加藤杏菜です。四年になっても陸トレくらい参加しようと思っていました。想像以上に研究室に籠っていてほとんど顔を出していません。もう少し効率の良い生活がで

きたらなと思う今日この頃です。今年は一年生に女子がたくさん入ってくれてとても嬉しいです。この勢いでランナー女子も増えてくれるといいなと期待しています。

今年は自転車ロードレースについて書いてみたいと思います。私がロードレース観戦にハマってから気づけば六年が経とうとしています。中でも七月に開催されるツール・ド・フランスは世界最大のレースと知られており、選手の間でも憧れの舞台となっています。三週間にわたりフランス全土とその周辺地域を駆け巡るこの壮大なレースは、毎年、私の夏を彩ってくれます。

チームは通常八人で構成され、その中に総合エースと呼ばれる選手が一人います。このエースは二十一日間の合計タイムで競う総合順位を狙います。ほかのメンバーはエースを勝たせるためにアシストとして前で走って風よけになったりペースメイクしたりとあらゆるサポートを行います。エースが勝利したとき、アシスト選手が自分のことのように喜ぶ姿からチームの絆を強く感じられていつも心を打たれています。総合順位以外にも見どころが満載です。各ステージの優勝争いや、スプリンター向けのポイント賞、クライマー向けの山岳賞があり、一つのレースの中で様々な場所で争いが繰り広げられます。

ここで私の推しの選手を紹介します。スロベニア出身二十六歳のTadej Pogacar ㇏。ファンの間ではタデイという愛称で親しまれ、ここ五年で三回総合優勝に輝いているスーパースターです。彼は総合優勝する選手なので登坂力に優れたクライマーかと思いき

や、スプリントも十分強く、個人タイムトライアルでもその強さを遺憾なく発揮しています。レース中はどんなアタックにも鋭く反応し、自ら先頭に出て全力で他を引き離す姿勢から、熱い闘志が伝わってきます。そんな彼にもお茶目な一面があり、ヘルメットから髪の毛を覗かせる姿が彼のトレードマークになっています。抵抗にならないのかなと不思議に思ったりもしますが、そんなことは関係ないくらい速くて強くてどんな時も魅せてくれる選手です。今年もさらに強くなってツール・ド・フランスに調子を合わせてくると思うので今から楽しみにしています。いつかは現地で観戦してみたい！！

#### 大学四年間で旅行好きになった件について

吉田 溪人

お世話になっております。ランナー四年の吉田 溪人です。部員文を書くのはもう四度目になりますが、これで最後になると思うとなんか寂しいです。こんなに思ったことをつらつらと書くことはなかなかないので、いい機会ではあると思っています。そんなこんなで私は旅行好きになったことについて話したいと思います。

私は高校生の時まで旅行といえば年に一回のデイズニーくらいでした。僕の地元には新幹線はおろか、空港なければも高速道路も通

っていないので旅行にはあまり向かない土地ともいえます。しかし、大学進学で仙台に来て、旅行のしやすさにびっくりしました。交通費といっても新幹線は徒歩圏内、空港も電車で一本、夜行バスもバンバン出ているので割と安く済みます。このアクセスの良さに旅行モチベーションが爆上がりし、今まで行ったことがないところに観光に行くことが多くなりました。僕が行った中でもおすすめの観光地を紹介します。

一つ目は草津温泉です。あの有名な湯畑を想像する人も多いと思いますが、とにかく食べ歩きできる店が多くて非常に楽しかったです。自分で温泉マークを焼き付けできる団子屋があったり、温泉卵をその場で食べられたりとなにを食べるか迷ってしまうくらい種類が豊富でした。雰囲気もよく治安もいいのでおすすめです。しかし、公共交通機関で行こうと思うと不便だと思うので車がおすすです。

二つ目は京都です。もう街の雰囲気が大好きで都会の喧騒から離れていながらも華やかさがあるので何日あってもまわりきれません。僕は御朱印集めもしているので、京都でたくさん回収出来ました。御朱印は行った記録が可愛く残るので個人的に好きです。皆さんもぜひ御朱印集めはどうですか。京都で特におすすめなのは三十三間堂です。千一体の千手観音がずらっと並んでいるので圧巻でした。あれは生まれてきた中で最も衝撃を受けた観光地かもしれません。そのくらいすごいです。

まだまだ行きたいところは尽きないですが、今のところは北海道

旅行を計画中です。登別温泉に宿泊する予定なので今から楽しみで仕方ありません。あとは色々食べて遊びまわりたいです。他にも広島や福岡、別府温泉などにも行ってみたいですが、それは社会人になってのお楽しみになりそうです。いずれは海外進出もしてみたいですが、情勢不安や景気の変動もすごいのでいったんは国内を楽しみたいと思います。

## 最近のことについて

宮崎真瑛

こんにちは。ランナー四年の宮崎真瑛です。まずは、部員文の提出が遅くなってしまう、SPUR委員の後輩に対し、多大なるご迷惑をおかけしたことをこの場を借りてお詫び申し上げます。

さて、十大戦が終わった後から、スキー部からしばらく離れてしまっているのですが、ここでは近況報告をしたいと思っています。四月からは数学セミナーが始まり、他の学生と一緒に数学書の輪読をしています。セミナーが「他の学部という研究室的なもの？」に相当するのだと思いますが、頻度はたったの週一回な上、学部生は卒論もないので、他の四年生よりも時間の融通は効かせられるのではないかな？と勝手に思っています。数学科の学生は大学院に進学する人も多いみたいですが、自身はというと学部卒で就職する予定です。学

部で学んだ範囲の数学で挫折を繰り返して、このまま学び続けられる自信がなかったというのと、北青葉山にある数学棟の資料室で閲覧できる過去の修士論文を見て絶望してしまったというのが大きいです。

今井敬裕

十大戦を最後に部から離脱しているのは自治体の職員採用試験の準備に十分な時間を確保するためでした。理系学部であれば技術職で採用枠が確保されていることが多いのですが、数学科卒が就職できる技術職はほとんどないので文系の人が多く受験する行政職での受験を中心に準備を進めています。横文字がなかなか覚えられないというのと、法律系の科目にアレルギー反応を起こしてしまっているというのもあって、上手く勉強が進んでいないというのは否定できません。基本は正しい選択肢を選んでいく形の問題なので、自車校の学科の勉強のような感覚で問題集と延々と「にらめっこ」しています。いつも図書館に引きずり出してくれる同期の梓と溪人には頭が上がらないです。就職先を確保できずに路頭に迷うわけにはいけないので、気合と根性でこれからの苦しい時期を乗り越えていきたいと思っています。

就活を終えたら部に復帰することが出来たらと今のところは考えていますが、その時にならないとどうなるか正直分かりません。最近運動らしい運動もほとんどできていないので、復帰に向けたハードルも高いのではないかと思ったりもしています。ただ、瑛斗は今年も競技に取り組むようなので、彼とともに日々の練習に邁進できるように、頑張っていけます。

本当にありがとうございました

みなさんいつもお世話になっております。昨年はランナーチーフとして活動させていただきましたが、自らの怪我や就職活動と重なりチームメイトには多くの負担をかけてしまいました。しかし、そのような中でも私を支えてくれたチームメイトには本当に感謝しています。ありがとうございました。

振り返れば三年間はあっという間であつたと感じます。自らがランナーチーフを引き継ぎ、活動をしていく中で、チームメイトへの感謝の気持ちが増え、活動をしていく中で、歴代の先輩方や同期への感謝や尊敬の気持ちもまた大きくなりました。私が一年生の頃のチーフはほのかさんでした。当時もちろん尊敬していましたが、自らがチーフを経験した今では尊敬の重みが変わったような気がします。就職活動とチーフ業を両立させていたことに加えて、ほのかさんの代はほのかさん一人でした。そのような中で我々後輩のために行動してくれていたことを思い出すと尊敬の念が絶えません。あの時はありがとうございました。そして私が二年生の時のチーフはにしーさん。にしーさんもまた、学業とバイトとチーフを両立させ、楽しいランナーを作っていただきました。本当に凄い方だったと思います。そして同期では、コンバチーフの谷祥太郎。同期が全員辞めていくなか、チーフとしても選手としても最後までやり通した姿を

本当に尊敬しています。こうして歴代チーフや同期のチーフ、チームメイトを見渡すと、本当に尊敬できる人ばかりに囲まれてきたことを強く実感します。スキー部での三年間は決して一言で楽しかったといえるような甘いものではありませんでした。真剣に取り組む中で数多の衝突を経験しました。物価上昇という社会情勢の中、金銭面での辛さも経験しました。時には体調を崩したこともありました。しかしそれ以上に、尊敬できる仲間に出会えたことが何物にも変え難い人生の糧になっているような気がします。後輩達にはぜひ最後までやり通して頑張ってほしいと思います。ランナーの後輩達はクロスカントリースキーに対する姿勢も真摯でし、部活に対する思いも強い人が多いと思います。きつとうまういきますから、仲間を大切にして最後までやり通してください。

最後になりますが、今までお世話になったチームメイトや諸先輩方には本当に感謝しています。ありがとうございました。

## ランナーでの三年間

西村大佑

こんにちは、ランナー四年のニシムラウです。これまでのスキー部の思い出と言いますか、そういうのを少し振り返ろうと思います。まず、はじめにランナー部門を選んだ理由ですが、ジャンプ

が怖い、下りが怖いで、体力があれば勝てるという競技特性からランナーを選びました。自分は何かと発言以外は安全志向高めの人なのでランナーが良いと思いました。ただ、クロスカントリーは難しい。体力以前に技術が必須です。何なら、技術さえあれば大学から始めた人には勝ててしまいます。二年生ぐらいまでは、自分のセンスと直感で競技をしていましたが、体力もあって、競技意欲も高い後輩が入ってくるとすぐ追いつかれました。しかし、そこから、クロスカントリーがより好きになりました。というのも、後輩に負け始めるとさすがに焦ります。なので、ちゃんと勉強というか上手い人のフォームを真似たり、教えてもらおうというのを積極的に行うようにしました。それから、徐々に上手くなり始め、クロカンがもつと面白く楽しいものだと感じるようになりました。体が大きくなっから新しく始めるスポーツというのは、考えてやればやるほど上手いくというのを実感できました。高校まで野球しかやってこなかったし、他のスポーツに全く興味が無かったので、こういうのは僕にとっては新体験でした。

僕はスキー部に入って良かったです。幾度かやめようと思ったときもありましたが、やめないで良かったと思います。多分どの競技にも、飽きが来るし、しんどくなったり、上手いかない時期があると思いますがそれを乗り越えてさらに競技がまた好きになる気がします。というか、その波のような物が世の中にはびこっていて、その波にやられず、最後までやりきれれば、あとは楽しいというのがスキー部で得た僕の知見です。ありきたりな知見な気がします

が、それが実感できたのは貴重な体験でした。今後一生の糧にします。

最後に、先輩後輩OB、そして同期のみんながとうございまして。特に同期には、幹部の仕事を最後まで全うしてくれてありがとう。おかげで僕は生粋のプレイヤーで居続けることができました。

## 大学人生振り返り

谷祥太郎

こんにちは、昨年度コンバインドチーフを務めました四年谷祥太郎です。毎年SPURの時期になると何を書こうかと前年度を振り返るため写真などを見返したりして、結局全然書き進められないのですが、最後ぐらっぱと終わらせてやりたいものだと思気込んでいるところです。

これまでの大学人生を振り返ってみて自分として一番成長した、とはちょっと違いますが、変化したことは、内面、性格だなと最近本当に実感しています。というのも、高校生、大学入学当初の自分は、いわゆる人の目を気にする、人に嫌われたくないがために人に合わせる、そんな人間だったような気がします。別にこの時の自分が嫌いとかそういうわけではないですが、今はだいぶ生きやすくな

ったような気がします。自分を持つこと、そして人は人、と割り切ることと変に他人に期待しなくなったことが変化の大きな要因かなと考えています。自分を持つこととは、自分に自信を持つ、自分を肯定してあげること、そのために、安直ですが自分磨き、服装に気を遣う、肌や体型のために食事を管理する、などを実際にやってきました。あとは自分の思考や感情を大切にすることが、別に人に期待しないからといって人と仲良くしないというわけではありません。自分自身気の置けない友人は必要ですし、人との関係性は大切にしたいとは思っています。ただ、人と関わり合う前や関わり始めたらうれしいなあ、という無意識にしてしまう期待をしない、つまり他人に対する期待や要求のハードルをあらかじめ下げておく、ことが大切だと思います。個人的ですが、人に期待をしてしまうからこそそうではない行動を相手がとった時に裏切られたと勝手に失望してしまうので、そもそも期待をしなければいいと思っちゃっています。

まあ何はともあれこうやって四年目のSPURも書き終えたわけで、こんな風に自分の思いの丈を書くこともこの先ないのかと思うと少し寂しい気持ちもありますが、この節目の年を大切にしていきたいと思っています。スキー部に所属したことに後悔はないし、本当に色々な面で良い経験ができたのと改めて実感しています。本当に今までお世話になりました。今後はスキー部に関わることはあま

りないと思いますが、これからも皆さんのご活躍をお祈りしています。それではさようなら。

## 今日の鮭弁、明日の私

渡邊梓

おはようございます。こんにちは。こんばんは。ランナー四年渡邊梓です。まずこの部員文を提出期限が過ぎたのに執筆していること、反省しております。二年前私はSPUR委員だったことを考慮するとなおさらこの期限切れは痛いものです。競技引退以降、スキー部とはスリのアオキ様との交流会や学祭準備の件で関わりを持たせていただいています。練習が日課だった数カ月前（サボっている時もありましたが）までと比べると、だいぶ生活におけるスキー部の割合が減り、どこか物悲しさを感じます。ただ、朝早起きしないで良いのはハッピーハッピーハッピーです。今回は私が普段の生活で感じることにいくつか述べていきます。

### ① つつきーによく遭遇している問題

私はここ最近よく、武屋の最下層ごと、つつきーとすれ違います。私が図書館に向かう際、北雄杯スタッフとして集合場所に時間

ギリギリで向かうつつきーとすれ違いました。別日に街中でスーツ姿の彼と遭遇しました。また別の日にヘルメットを被った彼と八幡の交差点ですれ違いました。武屋にもいやがりました。なぜなのでしょう？ つつきーとライフスタイルや志向が似ているからなのでしょうか？ と考えていたら毎日連続で、しゅんまとも大学ですれ違いました。意外と世界が狭いことを学びました。

### ② 歯医者選びをミスっていた問題

私はこの一・二年、度々歯が痛い。もともと虫歯があり、亀岡歯科というところで治療を始めました。虫歯は治してもらったのですが、それ以来なぜか歯が痛い。一度神経を抜きましたが、それでも痛い。神経がないのに痛いのです。わけが分かりません。友達に話したらセカンドオピニオンを勧められ、別の歯医者に行きました。その歯医者は亀岡歯科よりも機器が新しく、先生も丁寧に説明してくれて安心感がありました。この時私は歯医者選びを間違えていたことに気づきました。亀岡歯科には私の友達がたくさん通っていました。そのため何も考えずに皆行っているからここがいいやと軽く決めてしまっていました。実際、その友達自身も亀岡歯科を選んでいて理由はしょうもないものばかりでした。家が近いから、先生が怖くないから、治療中歯科衛生士さんのおっぱいが頭に当たるからなど、全く本質的ではありませんでした。医者選びに事前調査は必須であることを学びました。

③語り部の意義を広める必要がある問題

急ですがここは真面目にいきます。先日、学問論プラスの時間に高校生や学部一年生向けに「学生に求められる震災との関わり方は？」という題目で授業を実施しました。ここではメインで、「学生はすべて100%本気で取り組む必要はなく、自分自身の好きなタイミングで、好きなことを、望ましい総量で取り組むマインドで問題ない。むしろその方がより活動先のためになっている。」ということ伝えました。授業後、ある高校生から以下の感想をいただきました。「社会全体として、そもそもボランティアや伝承の意義などの前提知識が共有できていないと思う。なので全体的にボランティアへの関心がそこまで高くないのかもしれない。」私自身三年生ボランティア活動をする中で、石巻の魅力や防災知識の発信、活動先の課題分析とその解決に繋がるようなサロンの企画運営、そして高校生向けの伝承活動など模索しつつ実行してきましたが、どれもどこか結局意味をなしているのかと疑問視してきました。感想を受け、今後は地域や震災について発信するにとどまらず、ボランティア団体の存在意義も発信する必要があると感じました。そうすることによって地域のために実質的になっていると確証でき、しっかりとした意味を得られるかもしれません。新たな方法を示唆してもらい、学びとなりました。

④たまには予定通りにあえてしないことが大切である

私は学部二年生の春に胃腸を壊しました。逆流性食道炎と胃炎と十二指腸炎と大腸炎を同時に発生しました。それ以来度々腹痛がくるようになってしまい、その日もそうでした。私はその日たくさんタスクを抱えておりすべて終わらせるようスケジュールを組んでいました。いつもなら、どんなに障壁がやってきても全て予定通り実行していましたが、その日はあえてすべてやめて仙台中を歩くことにしました。大崎八幡宮や友達の家に行きました。特に印象的だったのはかまどやの鮭弁当を食べたことです。私にとってそれは重要でした。その鮭により、何かを成し遂げることに負われている自分が小さく思えました。スキー部の皆をはじめ、多くの人がそれぞれタスクを抱え、戦っていると思います。それにより息苦しさを感じている人も多いと思います。少しでも多くの人が、鮭弁当のような存在と出会い、視野を広く保てることを願います。すぐ身近に重要な気づきがあることを学びました。

最後に、残り十ヶ月で学生生活が終わり社会人となります。残り短時間ですがスキー部と関わりを持たせていただき、特に学祭ではできる限りのフォローを行い、生活していこうと思います。残りの時間、よろしく願います。

## 気づいたら四年生

澤田真拓

今回でSPURを最後にしたい四年の澤田です。昨シーズン中は四年になるのか、と思いつながら過ごしていました。所属する材料科学総合学科は研究室決めで三年の三月頃と遅く、行きたい研究室に行けるか不安でしたが、無事第一希望の研究室に配属となりました。

研究室配属で一番驚いたことは、塩倉くんが無事進級し第一志望の研究室に配属になったことですね。後輩が増えなくてよかったです。

まず、昨シーズンの振り返りをします。大きな怪我をする現役部員がいなくてよかったですが、チーフとしてはうまく働くことができなかったです。もっと二年生に厳しくできたらなと反省しています。十大戦について、アルペンは文句ない活躍でしたが、強いて言えばさくらと梓がSLでゴールできなかったことが悔やまれます。

今年はゴールして入賞してもらいたいです。インカレについて、自分も含めて全体的に完走率が低いので、安定した滑りをしたい、してもらいたいです。また、個人的にはGSのSAJポイントが百切ったのでよかったです。この調子で今年はSLも百切りたいです。

次に学生生活について、大坪さんがいた好田研究室に配属となったのですが、今年は四月から実験を行っており一週目から試料の作成や、Ramanでの分析が始まり初めてのことに對する恐怖と戦っています。そろそろ慣れそうですが、もう少し時間がかかりそうです。

研究内容については硫化スズ (SnS) をCVDで基板上に成長させ、窒素でエッチングすることで単層を得ることに関連する研究をやっています。初めて先輩方の研究内容を聞いたときはSnSって何？イスタのこと？とか思っていました。研究が始まってみればSnSについて詳しくなってきたおり、卒業する頃には先輩方と同じくらいの専門性を持てるのではないかと期待しています。充実した四年生が過ごせそうでうれしいですが、好田研究室の先生方は要求が高いらしいので、そこだけが心配です。

最後に趣味について、四年生になってからは十時から十七時までのコアタイムのもと生活しているため、以前のように時間があまりとれません。研究だけの生活にならないように適度に時間を取りたいと思っています。とりあえず、東海オンエアとワンピース、薬屋のひとりごとだけは追っていきたいと考えています。

卒論だけでなく、院試も今年はあるので、大学院に進学できるように院試勉強も頑張りたいです。また、日程が合えばインカレにも出たいのでオフ練も頑張りたいです。

なんでも後回しにする自分は本当にバカだ。二

齋藤瑛斗

タイトルと本文は関係ありませんが、院試やゼミ準備を後回しにし、SPURも期限内に書いている状況に自戒の念を込めて。

さて、私は図書館で借りた本は殆ど読み終わりません。自分で買った本も本棚の肥やしになるだけです。それでも、読書家に憧れ、本を買ってはまた挫折してしまいます。こんな事を繰り返している、周りの人の挫折率も気になってきます。なーんだ皆読めてないじゃん、と安心したいです。そこで密かに温めている自由研究の計画をここに記したいと思います。

## 一 研究目的

読書中の人の進捗率を収集することで、本がどの程度まで読まれているかの分布を明らかにする。

得られた進捗率の分布を解析し、次の統計量を数学モデルから推定する…

本を最後まで読む人の割合  $u$  (完読率)

途中で読むのをやめる人の割合  $1-u$  (挫折率) および挫

折者が離脱する時点での進捗率分布  $g(r)$

## 二 調査方法

対象…公共の場（カフェ、図書館、電車など）で本を読んでいる個人。

収集するデータ…

現在読んでいるページ数  $p$

本の総ページ数  $L$

読書進捗率  $r = p/L$

本のジャンルやタイトル

読者の推定年齢層、場所、時間帯などのメタ情報

方法声をかける

補正と注意…

長い本の読者は読む時間が長く、観測されやすいため、本の長さ  $L$  で正規化し、サンプル重みを補正する。

読書速度は本を通して一定と仮定する。ある一冊について考えれば難解な箇所などがあるためこの仮定は成り立たないが、様々な本の平均を取れば近似的に成り立つと思われる

三 数学モデルと推定手法

読者は以下の二つのタイプに分類される…

完読者…読書速度一定の仮定から、進捗率は一様分布

$u(r) = 1$  となる

挫折者…進捗率は前半に偏った分布  $g(r)$  となる

このとき、観測される進捗率の全体分布  $p(r)$  は次の混合分布として表される…

$$p(r) = f \cdot u(r) + (1-f) \cdot g(r)$$

よって、 $P(r)$ が観測によって得られれば、 $g(r)$ を抽出することができる：

$$g(r) = \frac{P(r) - f}{U(r) - f} = \frac{P(r) - f}{1 - f}$$

また、 $f = P(1)$ と仮定することが出来る。なぜなら、終盤まで読んで挫折する人は希少と考えられるため  $r \rightarrow 1$  且  $g(r) \rightarrow 0$  である。そのため、最終的に  $g(r)$  は観測量  $P(r)$  だけで与えられる。

$$g(r) = \frac{P(r) - P(1)}{1 - P(1)}$$

このように、本研究では観測された分布から混合構造を逆推定することで、挫折時点での進捗分布を得ることが出来る。これは、アンケート調査などの自己申告バイアスを含まない点で優位といえる。

#### 四期待される成果

単なる読了／未読の二値分類ではなく、「どこまで読まれているのか」という連続的な情報取得・分析することで、読書習慣の実態に新たな視点を与えられると期待される。

特に、本のジャンル、読者層、場所などによって挫折率の分布に違いがあるかを比較分析することも可能。

以上研究計画でした。構想はあるのですが、声をかけるハードルで未だ実行に移せてないです。四百データくらいあれば統計的に有

意になると思うので、一日一人に声をかければ一年程度で終わります。勇気のある人は代わりにやってぜひ結果を教えてください！

# 令和 6 年度会計報告

## 収入の部

項目		金額
部費	前期部費	¥645,000
	後期部費	¥600,000
	修士部費（登録実費）	¥29,000
	FIS 登録料割増金差額	¥10,000
企業協賛金	日本生命保険相互会社	¥200,000
	レバレジーズ株式会社	¥60,000
	Vertex Innovations 株式会社	¥8,000
	株式会社 DYM	¥130,000
大学関連	学友会体育部配布金	¥204,000
	Giving Campaign	¥164,861
新歓関連	新歓部費	¥280,000
	新歓スキー新入生参加費	¥33,000
その他	OB・OG 寄付金	¥276,500
	SPUR 広告費	¥27,000
	利子収入	¥528

収入合計	¥2,667,889
------	------------

支出の部

項目		金額※
団体登録関連費	SAJ 団体登録費	¥170,537
	SAJ/FIS 会員登録費	¥441,980
	宮城県連選手登録費	¥34,900
	chubb 保険料	¥210,417
大会関連費	十大戦協力金	¥95,330
	第 98 回インカレエントリー費	¥279,417
	国スポ予選エントリー費	¥23,250
	各種大会エントリー費補助	¥233,935
道具等購入費	競技用ワックス購入費	¥133,108
	ワックス用具購入費	¥9,166
	スキージャンプ板用品購入費	¥19,563
	スキージャンプブーツ購入費	¥35,000
	ローラースキー購入費補助	¥66,330
	ローラースキー金具交換費	¥1,100
	トレーニングチューブ購入費	¥1,305
	バランスボード購入費	¥5,998
	無線機バッテリー購入費	¥4,249
	用具輸送費	¥4,245
	リムーバー購入費	¥11,600
	ワックスペーパー購入費	¥4,840
OB・OG 関連費	SPUR 製作関連経費	¥95,688
	萩雪会宮城県連登録費	¥42,000
	宮城県連仙塩地区連絡協議会負担金	¥5,000
	はがき購入費	¥2,550
	萩雪会忘年会参加費	¥2,500
幹部業務関連費	HP サーバー更新料	¥5,286
	蔵王幹部挨拶関連経費	¥13,043
	部室清掃関連経費	¥4,050
協賛企業関連費	日本生命ワッペン製作費	¥22,000
新歓活動関連費	新歓スキー経費	¥150,671
	新入生ご飯会経費	¥136,599

	新歓合同企画関連経費	¥14,778
	新歓広報関連経費	¥1,084
	インカレ宿泊費補填	¥13,080
	次年度繰越金	¥363,290
その他		

支出合計	¥2,657,889
------	------------

令和6年度（令和6年5月1日～令和7年3月28日）にご寄付いただいた方のお名前を掲載しております。令和6年度は計276,500円のご支援をいただきました。多額の寄付金をお寄せいただきましたこと、部員一同幸甚に存じます。

なお、今年度の寄付金につきましては、次号SPUR第70号に掲載いたします。今後とも変わらぬご支援よろしくをお願いいたします。

お問い合わせは下記をお願いいたします

〒980-0862 宮城県仙台市青葉区川内41 学生支援課 課外活動係  
スキー部ホームページ（<https://ski-tohoku.main.jp>）内メールフォーム



ホームページ

平素よりスキー部の活動に格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。寄付金は銀行口座への振り込みにより寄付をお願い申し上げます。

皆様のご支援、重ねてお願い申し上げます。

東北大学学友会スキー部部員一同

銀行口座

ゆうちょ銀行：02200-4-19520

みずほ銀行：723-1077949

口座名義はどちらも「東北大学学友会スキー部」となっております。

<寄付金に関するお問い合わせ>

会計：谷口聖実

メールアドレス：ski.racing.tohoku@gmail.com

# 学友会スキー部部則

## 学友会スキー部部則

第一条 本部は東北大学学友会スキー部と称する

第二条 本部は東北大学学友会運動部の一環として母校の名誉のために活動すると共に、各自技術の向上に努め、部員会員相互の交誼を温め、その親睦を密にすることをもってその目的とする。

第三条 本部は前条の目的を達成するために次のことを行う。

- 一、対外試合の参加
- 一、部報および名簿の作成
- 一、各種部活動の実施
- 一、その他

第四条 本部はその本部を東北大学片平丁校内に置き、その他の支部を統合する。

第五条 本部は部員、会員および特別会員をもって構成し、その資格者は次の者とする。

一、部員は東北大学在学中の学生

一、会員は東北大学卒業生で在学中本部に在籍した者

一、特別会員は、部長、副部長、顧問、コーチおよび特に部会で認められた者

第六条 本部部員は次の義務を負うものとする。

- 一、入部の際、定額の入部費を負うものとする
- 一、部費として年間一定額納入すること
- 一、定められた部会、トレーニング合宿およびその他の部活動に参加すること。欠席する際にはその事由を届けなければならぬ。

第七条 本部部員の進退は部会でこれを決定することができる。

第八条 部会は部員をもって構成し、主将が必要と認めた場合これを召集する。

第九条 本部会員、特別会員については別にこれを定める。

第十条 本部会員は次の者をもって構成する。

第十一条 主将、副将、主務、副務は、前年度の役員の推薦により選出し、部会の承認を要する。その人気は一年（四月より翌三月）とし、再任を妨げない。

第十二条 本部の経費は学友会費・部費・入部費・会員費・寄付金その他の収入により充当し、会計年度は四月一日より翌年三月三十一日までとする。

第十三条 主務は部員に対し年一回以上の会計報告をせねばならない。

第十四条 本部部則の改正は部総会で総部員の三分の二以上の賛成をもって議決することができる。

第十五条 本部部則は昭和三十五年七月一日をもってその効力を発する。

東北大学萩雪ヒュッテ使用規定（昭和四十年七月一日制定）

#### （趣旨）

第一条 東北大学萩雪ヒュッテ（以下「萩雪ヒュッテ」という）の使用については、この規定の定めるところによる。

#### （使用目的）

第二条 萩雪ヒュッテは、東北大学（以下「本学」という）学生および教職員の体育活動・研修等に使用するものとする。

#### （使用の願い出）

第三条 萩雪ヒュッテを利用しようとする者は、所定の願書を使用七日前までに学生部長に提出し、その許可を受けなければならない。

#### （使用期間）

第四条 萩雪ヒュッテの使用期間は七日以内とする。ただし、特別の理由があると認められたときはこの限りではない。

(使用日時等の変更および取り消し)

#### 第五条

1. 本学において公務上の必要が生じた場合は、使用許可を取り消し、または使用日時等を変更させることがある。

2. 使用の許可を受けた者(以下「使用者」という)に規定違反の行為があると認めた場合は、使用許可を取り消すことがある。

(使用権利譲渡の禁止)

#### 第六条

使用者は利用の権利を第三者に譲渡してはならない。

(損害賠償)

#### 第七条

使用者が故意または過失により、建物・設備。備品等を損失又は滅失しときは、それによって生じた損害を賠償しなければならない。

(使用者心得)

#### 第八条

使用者は別に定める使用者の心得を守らなければならない。

(補足)

#### 第九条

この規定に定めるもののほか、萩雪ヒュッテの使用に關し必要な事項は学生部長が定める。

#### 附則

この規定は昭和四十年七月一日から施行する。

東北大学萩雪ヒュッテを学友会スキー部が使用するときの方法について(昭和四十二年十月二十日)

東北大学萩雪ヒュッテを学友会スキー部が使用するとき、左記の方法によるものとする。

#### 記

一、東北大学萩雪ヒュッテ(以下「萩雪ヒュッテ」という)を学友会スキー部(以下「スキー部」という)が使用するときは「東北大学萩雪ヒュッテ使用規定」(昭和四十年七月一日)によるほか、次の方法によるものとする。

二、スキー部は萩雪ヒュッテの一部(二階部分)を通常専有することが出来るものとする。

三、スキー部が強行訓練の合宿のため萩雪ヒュッテを使用するときは、スキー部以外は使用させないものとする。

四、萩雪ヒュッテのスキー部専用室を使用できる者は、スキー部長、副部長、監督、部員とする。ただし東北大学（以下「本学」という）関係者が管理上必要な場合は使用できるものとする。

五、萩雪ヒュッテをスキー部以外の者が使用するときは、一階部分を使用するものとする。ただし、一階の各室が一時的に収容能力を超えたときは、スキー部活動に支障ない限りスキー部専用室を使用できるものとする。

六、スキー部は、萩雪ヒュッテの運営について随時本学に協力するものとする。

七、スキー部が強行訓練等により萩雪ヒュッテを使用するときは、学生部に届けでるものとする。

## 広告

ブナの森 玉原高原 ペンション  
バン・デ・ルージュ

*Vin de Rouge*



交通：関越自動車道沼田ICより35分

玉原スキーパークの目の前です。(11月末より5月連休まで滑走可能)

クロスカンリースキー、山スキーにも最適。春はブナの新緑や玉原湿原のミズバショウ。夏はテニス、ハイキング、登山、サイクリングなど。ラベンダー園では夏山リフト運行中。ラフティング(激流下り)、カヌー、パラグライダーの体験教室あり。秋にはブナの森の紅葉の中でぶどう狩り、リンゴ狩り、きのこ狩り。

萩雪会の皆様のおいでをお待ちしております。(56年卒杉山)

〒378-0071 群馬県沼田市上発知町玉原高原 Tel 0278-23-9114

# ジュピア

蔵王温泉上の台スキー場

## JUPEER



**蔵王温泉観光株式会社 蔵王スキー学校**  
 〒990-2301 山形県蔵王温泉18番地  
 tel (023)694-9417

**お食事は  
4 F チアリー**

でどうぞ。

# 堀畜産有限会社

蔵王店 蔵王温泉954-1 TEL. 694-9236



仙台市青葉区中央2-6-6 タペビル3F  
 [営業時間]  
 AM10:00~PM20:00  
 パーマのみ最終受付 PM19:00  
 [定休日]  
 ホームページでご確認ください  
**TEL:022-265-6577**

## MENU

※全メニュー顔剃り・シャンプー込  
 ※表示価格は全て税込

・カット .....	(大 人)	1,980 円
.....	(小中学生)	1,680 円
・白髪染め .....		3,850 円
・ファッションカラー .....		5,500 円 ~
・パーマ .....		6,600 円 ~
・アイロンパーマ .....		7,700 円
・縮毛矯正 .....		11,000 円
・ヘッドスパ (育毛、クール) ...		550 円
・ノーズクリーン .....		550 円
・スキン .....		550 円
・ライン .....		550 円

HPはこちら





## 広告協賛一覧

ご協力ありがとうございました。

ペンション バン・デ・ルージュ 様

蔵王温泉観光株式会社 様

堀畜産有限会社蔵王店 様

メンズヘアージェントルマン 様

## 奥付

スキー部冬季宿泊先：東北大学萩雪ヒュッテ

山形県山形市蔵王温泉 820-1 電話番号：023(694)9094

スキー部口座：

郵便振替口座 02200-4-19520

みずほ銀行 723-1077949

口座名義はどちらも「東北大学学友会スキー部」となっております。

スキー部ホームページ：<https://ski-tohoku.main.jp>

スキー部ブログ：<https://ameblo.jp/tohokuski/>



ホームページ



ブログ

上の QR コードからもアクセスできます。最新の活動状況などぜひご覧ください。

お問い合わせ：[ski.racing.tohoku@gmail.com](mailto:ski.racing.tohoku@gmail.com)

スキー部ホームページ内のメールフォームからお問い合わせ可能です。

### 編集後記

SPUR69 号の編集・発行は、尾白梓、橋浦雅英、益子尚真で務めさせていただきました。誤りの無いようには努めましたが、誤字・脱字等を見つけられましたら、ご連絡お願い致します。

---

SPUR 第 69 号

発行日：令和 7 年 10 月 1 日

発行所：東北大学学友会スキー部

〒980-8577

宮城県仙台市青葉区片平 2 丁目 1-1

発行者：尾白梓

編集者：橋浦雅英、益子尚真

印刷所：プリントコープ

東北大学片平キャンパス 学生生協内

---